

各國刑法類纂第六卷

司法省記錄文庫
第五百四十六號

第五號
第一架
第七

司法省記錄文庫
第一一號

司法省
第九號
寄贈圖書文庫





各國刑法類纂卷六目錄

第六十一 強竊盜ノ罪

第六十二 監守自盜ノ罪

第六十三 詐偽財ヲ奪フノ罪

第六十四 遺失物ヲ私有スル罪

第六十五 信義ニ背キ利ヲ圖ル等ノ罪

第六十六 家資分散ニ就テノ罪

第六十七 贓物ヲ藏匿スル等ノ罪

B600
S 1
9 f

司
法
官

第六十一 強竊盜ノ罪

○佛蘭西

第三百七十九條 何人ニ限ラス已レニ屬セサル物ヲ盜ミシ罪ヲ名ケテ盜罪ト云フ

第三百八十條 夫ノ其婦ノ物ヲ盜ミ或ハ婦ノ其夫ノ物ヲ盜ミ又ハ鰥夫或ハ寡婦其死去シタル配偶者ノ物ヲ盜ミ又ハ子及ヒ卑屬ノ親其父母及ヒ尊屬ノ親ノ物ヲ盜ミ或ハ父母及ヒ尊屬ノ親其子及ヒ卑屬ノ親ノ物ヲ盜ミ又ハ同上ノ級ノ姻屬ノ親互ニ相盜ハ時ハ損失ノ償ヲ爲ス可キノミトス

其他ノ者其贓物ノ全部又ハ一部ヲ隱藏シ又ハ已レノ利益ト為タル時ハ盜罪ノ刑ニ處セ

ラ
ル
可
シ

第三百八十一條

第一 夜間盜ヲ為シ

第二 二人以上ニテ盜ヲ為シ

第三 盜者數人又ハ一人表攜ノ兵器及ヒ暗

藏ノ兵器ヲ持セシ時

第四 其盜者人ノ居住シ或ハ居住ス可キ家

屋又ハ房室或ハ其家屋ニ屬スル房舎ノ外

部ヲ破壊シ或ハ攀援シ或ハ偽鑰ヲ用ヒ其

家屋又ハ房室或ハ房舎内ニ於テ其罪ヲ犯

シ又ハ上等官吏或ハ文武官吏ノ名稱ヲ詭

リ又ハ上等官吏或ハ文武官吏ノ衣服ヲ僭

用シ又ハ文武官吏ノ命ヲ偽リ其罪ヲ犯シ

第五 暴行ヲ為シ又ハ兵器ヲ用ヒント脅迫

シテ其罪ヲ犯シ

此五箇ノ景状ヲ合シテ盜罪ヲ犯シタル者ハ

無期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第三百八十二條

千八百六十三年五月
十月十三日如左改ム

暴行ヲ以

テ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラ

ル可シ○若シ其犯罪ノ時行フタル暴行ニ因

リ人ニ斫痕或傷痕ヲ遺シタル者ハ其所行ノ

ミヲ以テ無期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第三百八十三條

第三百八十一條ニ記シタル

五箇ノ所行中其二箇ヲ行ヒ道路ニ於テ盜罪

ヲ犯シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セララル可シ

若シ第三百八十一條ニ記シタル五箇ノ所行

中其一箇ヲ行ヒ道路ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ
其他ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可シ

第三百八十四條 第三百八十一條ノ第四ニ記シタル方法ノ一箇ヲ以テ盜罪ヲ犯シタル者ハ人ノ住居ニ用フルヲナク且人ノ住居スル家屋ニ屬スルヲナキ建造物或ハ繞圍ヲ設ケシ地ヲ破壞或ハ攀援シ又ハ偽鑰ヲ用ヒテ潛入シ且其破壞ノ所為ヲ家屋ノ内部ノミニ於テ行ヒシ時ト雖モ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第三百八十五條

千八百六十年五月十三日如左改ム

第一 夜間盜罪ヲ犯シ

第二 人ノ居住スル家屋又ハ佛蘭西ノ法律ニ循ヒ允准セシ法教ノ為メ設ケタル建造物内ニ於テ盜罪ヲ犯シ

第三 二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ且其犯人中ノ數人又ハ一人表攜ノ兵器或ハ暗藏ノ兵器ヲ持シ

此三箇ノ所行中其二箇ヲ行フテ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第三百八十六條

第一 夜間二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニテ人ノ居住シ或ハ居住ニ用フ可キ家屋或ハ佛蘭西國ノ

法律ニ循ヒ允准セシ法教ノ為メ設ケタル
建造物ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時

第二 盜罪ヲ犯セシ場所人ノ居住シ或ハ居
住ニ用フ可キ家屋ニ非スシテ且晝間一人
ニテ盜ヲ為シタル時ト雖モ其犯人表携ノ
兵器或ハ暗藏ノ兵器ヲ持セシ時

第三 僕婢或ハ其他ノ雇人縱令ヒ其主ニ對
シ盜罪ヲ犯スニ非スト雖モ其主家ニ在ル
者及ヒ其主ニ隨行シテ赴キシ家屋ニ居ル
者ニ對シ盜罪ヲ犯セシ時又ハ雇主ノ家屋
製造所倉庫ニ住スル工丁或ハ年季ノ弟子
其住スル場所ニ於テ盜罪ヲ犯シ又ハ工業
ヲ為ス者通常其工業ヲ為ス家屋ニ於テ盜

罪ヲ犯セシ時

第四 旅舎ノ主人陸路運送人水路運送人又
ハ其使用スル者其職業ニ付キ委托ヲ受ケ
シ物ノ全部又ハ一部ヲ盜ミシ時

此等ノ場合中ノ一ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時ハ
其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス
可シ

第三百八十八條 物ヲ負載セシメ或ハ車ヲ挽

カシメ或ハ騎行ニ用フル馬及ヒ其他ノ獸類
又ハ大小ノ家蓄獸又ハ耕作ノ器具ヲ田野ニ
於テ盜ミ又ハ盜マント試ミ為シタル者ハ一
年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁
錮ノ刑ニ處セラレ且十六「」ラックヨリ少カ

ラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言
渡ヲ受ク可シ

期ヲ定メ伐り出ス可キ木材又ハ石礦ニアル
石又ハ池沼ニ養フ魚ヲ盗ミシ者ハ同上ノ刑
ニ處セラル可シ

既ニ地ヨリ刈收セシ穀類或ハ其他地ヨリ生
スル要用ノ産物又ハ刈收シテ堆積シタル穀
草類ヲ田野ニ於テ盗ミ又ハ盗マント試ミ為
シタル者ハ十五日ヨリ少カラス二年ヨリ多
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フ
ランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カ
ラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
車或ハ物ヲ負載セシムル獸類ヲ用ヒ又ハ夜

間一人或ハ晝間二人以上ニテ前文ニ記シタ
ル盗罪ヲ犯セシ者ハ一年ヨリ少カラス五年
ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且
十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨ
リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

未タ地ヨリ刈收セサル穀類又ハ其他地ヨリ
生スル要用ノ産物ヲ籃、囊或ハ其他此類ノ器
具ヲ用ヒ又ハ車或ハ物ヲ負載セシムル獸類
ヲ用ヒ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニテ
盗ミ又ハ盗マント試ミ為タル者ハ十五日ヨ
リ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ
刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス
二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ

受ク可シ

此一條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ其犯人ハ前文ニ記セシ主タル刑ノ外其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百八十九條

千八百六十二年五月十三日如左改正

盜罪ヲ

犯ス可キ為メ土地間ノ境界ヲ為ス物ヲ除去シ又ハ除去セント試ミ為シタル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フ」ランク「ヨ」リ少カラス

五百「フ」ランク「ヨ」リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百九十條

人ノ居住スル家屋トハ現ニ人

ノ居住スルニ非スト雖モ人ノ居住ス可キ為メ建造シタル諸般ノ家屋、小屋、廠舎又ハ搬運ヲ為ス可キモノト雖モ人ノ居住ス可キ小屋又ハ廠舎又ハ用法ノ如何ヲ問ハス且外圍ノ内ニ別ニ牆塀ヲ以テ圍繞シタルヲ問ハス園

庭又ハ穀類及ヒ耕作ノ器具ヲ藏スル小舎又ハ鷄鶩ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ廐及ヒ其他ノ建造物ノ如ク人ノ居住ス可キ家屋ニ附加ス可キ建造物ヲ指シ云フ

第三百九十一條 繞圍ヲ設ケシ地トハ溝渠、板、植籬、編牆及ヒ其他何物ヲ論セス總テ塀牆ト為ス可キ物ヲ以テ圍繞シ且鑰ヲ用ヒ及ヒ其他ノ方法ヲ以テ開閉スル門戸ナク又ハ透觀ス可キ門扉ヲ設ケ通常其門ヲ開キ置ク地ヲ指シ云フ但シ其塀牆、溝渠ノ高深又ハ新舊ヲ問フコトナシ

第三百九十二條 造方ノ如何ナルヲ問ハス田野ニ於テ獸類ヲ入置ク為メ設ケタル搬運ス可キ欄圍モ亦繞圍ヲ設ケシ地ト看做ス可シ但シ其欄圍獸類ノ看守人ノ為メ設ケタル搬運ス可キ小屋又ハ其他看守人ノ為メ風雨ヲ蔽フ可キ小屋ニ屬スル時ハ之ヲ人ノ居住スル家屋ニ屬セシ物ナリト看做ス可シ

第三百九十三條 塀牆、瓦板、門戸、牕、鎖及ヒ其他何物ヲ問ハス人ノ行路ヲ鎖閉シ及ヒ防遮ス可キ為メ設ケタル器具及ヒ諸般ノ繞圍ヲ強テ振開シ又ハ毀壞シ及ヒ除去スルヲ稱シテ破壊ト云フ

第三百九十四條 破壊ヲ分テ二種トス一ヲ外部ノ破壊トシ一ヲ内部ノ破壊トス

第三百九十五條 外部ノ破壊トハ家屋又ハ家

屋ニ屬スル園庭又ハ穀類及ヒ耕作ノ器具類等ヲ藏スル小舎又ハ鷄鶩ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ其他繞圍ヲ設ケタル場所又ハ家屋ニ屬シタル場所又ハ房室ニ入ルタメ為シタル破壊ヲ云フ

第三百九十六條 内部ノ破壊トハ前條ニ記シタル場所ニ入りタル後其内ニアル門戸、塀牆又ハ戸棚及ヒ其他總テ鎖ヲ施シタル家具ニ為シタル破壊ヲ云フ

何物ヲ論セス總テ財産ヲ入レタル箱匣、竝櫃又ハ括リタル行李及ヒ其他緊ク掩蓋シタル家具類ヲ其在ル場所ニ於テ破毀スルトナク其儘ニテ奪ヒ去ルト雖モ亦内部ノ破壊ナリ

トス

第三百九十七條 塀牆、門戸、屋蓋及ヒ其他ノ繞圍ヲ越テ家屋及ヒ家屋ニ屬スル建造物、園庭或ハ穀類及ヒ耕作ノ器具類ヲ藏スル小舎又ハ鷄鶩ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ其他諸般ノ建造物、園庭及ヒ繞圍ヲ為シタル地ニ入ルヲ名ケテ攀援ト云フ

出入ノ爲メ設ケシモノニ非サル地道ヨリ潛入シタルハ攀援ト同罪ナリトス

第三百九十八條 偽造、變造ノ搭鑰、合鑰及ヒ偽鑰又ハ家屋ノ所有者及ヒ借受人、旅舎ノ主人及ヒ旅舎ニ宿スル者ノ鎖、吊鎖及ヒ其他鎖閉ヤシ物ヲ開クニ用フ可キ為メ設ケタルニ非

サハル鑰合鑰及ヒ搭鑰ヲ名ケテ贋造ノ鑰トス
第三百九十九條 千八百六十三年五月
十三日如左改ム 鑰ヲ贋

造シ及ヒ變造シタル者ハ三月ヨリ少カラス
二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ
レ且二十五「フランク」ヨリ少カラス百五十「フ
ランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可
シ若シ其犯人鑰ノ製造ヲ以テ業ト為ス時ハ
二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間
禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少
カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ
言渡ヲ受ク可シ
又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少
カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條

ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁
ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間
政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ
但シ此規則ト他ノ重罪ヲ犯セシ時更ニ重キ
刑ニ處セララル可キ規則ト相觸ル、トナカル
可シ

第四百條 千八百六十三年五月
十三日如左改ム 脅迫又ハ暴行

ヲ以テ義務契約、算還ノ旨ヲ記シ又ハ此等ノ
事ヲ為サシムル書類、證書類ニ姓名ヲ手署セ
シメシ者又ハ其書類、證書類ヲ渡サシメタル
者ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ
書面或ハ言詞ヲ以テ人ノ名望ヲ辱ム可キ漏
告及ヒ讒誣ヲ為スヲ脅迫シ金額又ハ財産ヲ

渡サシメシ者又ハ前文ニ記シタル書類、證書類ニ姓名ヲ手署セシメ又ハ其書類、證書類ヲ渡サシメシ者又ハ此等ノ事ヲ試ミ為シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

負債ノ為メ自己ノ財産ヲ抵償トシテ差押ヘラレシ者其財産ヲ預リテ其預リ中之ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ為シタル時ハ第四百六條ニ記シタル所ノ刑ニ處セララル可シ

若シ負債ノ抵償トシテ差押ヘラレタル已レ

ノ財産ヲ他人ノ預リタル時其財産ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ為シタル者ハ第四百一條ニ記スル所ノ刑ニ處セララル可シ

負債者又ハ負債ノ保證人其質トシテ附與シタル品物ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ為シタル時ハ亦第四百一條ニ記スル所ノ刑ニ處セララル可シ

竊取シタル物ヲ故意ヲ以テ隠匿セン者又ハ負債者或ハ負債ノ保證人其質トシテ附與シタル品物ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ為スヲ助ケタル其配偶者又ハ其尊屬及ヒ卑屬ノ親ハ其犯人ト同一ノ刑ニ

處セラル可シ

第四百一條 前數條ニ記セサル竊盜ノ罪ヲ犯セシ者及ヒ犯サント試ミ為シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フ」ラシクヨリ少カラス五百「フ」ラシクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

又其犯人ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

○獨逸

第二百四十二條 他人ニ屬シタル動産ヲ不正ニ已レノ所有物トセントスルノ目的ニテ其物ヲ奪フタル者ハ盜罪トナシ禁獄ノ刑ニ處ス可シ

之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ

第二百四十三條 盜罪ヲ犯シ左ノ情状アルトキハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一項 禮拜金ニ供シタル物ヲ其禮拜ノ為メニ設ケタル場所内ニテ之ヲ盜ミタル者

第二項 家屋又墻塀ノ内ニテ盜犯ヲ為スニ其外部ヲ破壞シ又攀援シ又ハ其内部ヲ破壞シ又ハ其他ノ動産ヲ崩チタル時

第三項 家屋又ハ墻塀内ニ入ル為メ又門戸
墻塀又ハ其他動産物ヲ開ク為メ盜犯ニテ
之レ等ヲ開ク為メニ用ヒル他ノ偽鑰又器
械ヲ用ヒタル時

第四項 街衢公園水路船ノ通行鐵道郵便官
司ノ建造物内又ハ其所屬ノ場所又ハ鐵道
會所ノ建造物又ハ其所屬ノ場所ニ於テ旅
人ノ荷物又ハ其他運送スヘキ物件ヲ盜ミ
タル時又其物件ヲ閉チ又包ミタル網等ヲ
破毀シ又ハ之レヲ掠取シタル時又平生其
物件ヲ開ク為メニ用ヒサル偽鑰又ハ器械
ヲ用ヒタル時

第五項 盜罪ヲ犯スニ其首徒ノ内一人武器
ヲ携ヘタル時

第六項 暴行ヲ為シ或暴行ヲ為シ盜罪ヲ犯ス目的ニテ
數人徒黨ヲナシ盜罪ヲ犯シタル時

第七項 盜罪ヲ犯スノ目的ニテ竊ニ人家ニ
入り其内ニ隱レ夜間盜ヲ為シタル時其盜
ヲ為シタル時間其人等ニ人ノ住居セサル
時モ亦同シ又其家屋ニ屬スル墻塀及ヒ其
墻塀内ニ建タル各種ノ建造物並ニ人ノ住
シタル船モ人家ト同ク論ス

若シ酌量輕減アリト雖モ三月ノ禁獄ヨリ減
ス可カラス

第二百四十五條 強竊盜又ハ強盜ト同ク論ス
ヘキ犯罪又ハ其窩主ヲ為シタルニヨリ獨送

裁判所ニテ處決セラレタル者再々其同種ノ
 重罪輕罪ヲ犯シ其再犯ノ罪若シ竊盜ニ該レ
 ハ第二百四十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ
 若シ強盜ニ該レハ第二百四十二年ヨリ短カラ
 サル徒刑ニ處ス可シ
 若シ酌量輕減アル時ハ竊盜ナレハ三月ヨリ
 短カラサル禁獄ニ處シ強盜ナレハ一年ヨリ
 短カラサル禁獄ニ處ス可シ
 第二百四十六條 唯前刑ノ一部ヲ終へ又ハ其
 全部或ハ一條ヲ赦宥セラレタル時モ亦第二
 百四十四條ヲ通シテ用フヘシ若シ處スル處
 ノ刑ヲ經過シ又ハ其刑ヲ赦宥セラレタル時
 再々盜罪ヲ犯ス迄ノ時間已ニ十年ヲ過キタ
 ル者ハ此例ニアラス

第二百四十七條 人其親族後見人教師又ハ奴
 僕雇直ヲ與へ使役スル人又ハ寄食生徒ニ對
 シ盜罪ヲナシ又騙取ノ罪ヲ犯シタル時ハ其
 訴アルニ非ラサレハ其罪ヲ論ス可カラス
 尊屬ノ親ヨリ卑屬親ニ對シ又夫婦互ニ為シ
 タル盜犯騙取ハ訴フルヲ得ス
 其首從氏其等親ニ非ラサレハ此條ヲ通シテ
 用フ可カラス

第二百四十八條 盜罪又ハ騙取ノ罪ヲ犯シタ
 ルニヨリ禁獄ニ處セラレタル時ハ仍ホ公權
 ヲ剥奪シ又其盜罪ニヨリ徒刑ニ處セラレタ
 ル時ハ其餘政府ノ監察ニ付ス可シ

第二百四十九條 人ニ對シ暴行ヲ為シ又現ニ其身體ヲ傷スヘク又生命ニ罹ルヘク脅迫シテ已レニ屬セサル動産ヲ故ナク已レノ所有トセン為メ奪フタル者ハ強盜罪トナシ徒刑ニ處ス可シ

若シ酌量輕減アルト雖モ六月ノ禁獄ヨリ減ス可カラス

第二百五十條 盜罪ヲ犯シ左ノ情狀アルモ五年ヨリ短カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一項 強盜犯ノ首又其附從ノ内一人武器ヲ携ヘタル時

第二項 暴行ヲナシ又暴行ヲナサス盜罪ヲ犯スノ目的ニテ數人徒黨ヲ組ミ強盜ヲナシタル時

第三項 街衢鐵道公園海上及ヒ水路行船ノ通ニ於テ強盜ヲナシタルトキ

第四項 暴行ヲ為シ又暴行ヲナサス盜罪ヲ犯スノ目的ニテ竊ニ人家ニ入り又ハ暴行ヲ為シ其人家ニ入り又ハ其盜罪ヲ犯ス目的ニテ人家ニ隱レ夜間強盜ヲ為シタル時

第二百四十三條第九節

第五項 強盜又ハ強盜ト等シク論スヘキ重罪ニ因リ已ニ獨逸裁判所ニ於テ處決セラレタル者強盜ヲナシタル時ハ第二百四十四條ニ記シタル條々ヲ通シテ用フヘシ

若シ酌量輕減アリト雖モ一年ノ禁獄ヨリ減

ス可カラス

第二百五十一條 強盜ヲ為シタル時人ノ身体ヲ拷打シ因テ人ヲ重傷ニ致シ又ハ死ニ致シタル者ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第二百五十二條 盜犯現ニ覺逐セラレ其盜品ヲ占有セン為メ人ニ對シ暴行ヲ為シ又ハ現ニ其身体生命ニ罹ル危難ニ及フヘク脅迫シタル者ハ皆強盜ト同シク論ス

第二百五十三條 自ラ不正ノ利ヲ得ントスル為メ又ハ之レヲ人ニ得セシメントスル為メ暴行脅迫ヲ以テ人ヲシテ強テ事ヲ為サシメ又之レヲ止メシメ又ハ之レヲ肯ニセシメタル者ハ勒索ノ罪トナシ一月ヨリ短カラサル

禁獄ニ處ス可シ
之レヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ

第二百五十四條 勒索ヲ為スニ謀殺放火洪水ヲ以テ恐喝シタル者ハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第二百五十五條 勒索ヲ為スニ人ニ對シ暴行ヲ為シ又現ニ其身体生命ニ罹ル危難ニ及フヘク脅迫シタル者ハ強盜ト同シク論ス

第二百五十六條 勒索ニヨリ禁獄ニ處セラレタル者ハ公權ヲ剝奪スルヲ得可シ強盜勒索ニヨリ徒刑ニ處セラレタル者其餘政府ノ監察ニ付スヘシ

第二百五十八條 事後ノ附從ハ自己ノ利益ヲ
得ニ為メニ補助シタル時ハ窩主トナシ左ノ
件々ニ循ヒ處ス可シ

第一項 其補助シタル重罪輕罪ノ犯首竊盜
又騙取ノ罪ヲ犯シタル時ハ禁獄ニ處ス可
シ

第二項 其補助シタル重罪輕罪ノ首重盜盜重

トハ強盜ニ非ラズ竊盜以テ上ノモヲ云及
フタトハ強盜ニ非ラズ竊盜以テ上ノモヲ云及

ヒ強盜又ハ強盜ト同シク論スヘキ重罪ヲ
犯シタル時ハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ
處ス可シ

若シ酌量輕減アリト雖氏三月ノ禁獄ヨリ減
ス可カラズ窩主其重輕罪犯ノ首ノ近親タル

ハハ此條ヲ通シテ用フヘシ

第二百六十一條 獨逸裁判所ニテ窩主トナシ

處決セラレタル者再ヒ其同種ノ重輕罪ニヨ
リ處決セラレ其後重盜又ハ強盜或ハ強盜ト

同シク論スヘキ重罪ニヨリ更ニ窩主ノ罪ヲ
犯シタル時ハ二年ヨリ短カラサル徒刑ニ處

スヘシ若シ酌量輕減アリト雖氏一年ノ禁獄
ヨリ減スヘカラズ

若シ其他ノ犯罪ノ後窩主ノ罪ヲ犯シタル片
ハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處スヘシ若シ

酌量輕減アル片ハ三月ヨリ短カラサル禁獄
ニ處ス可シ

二百四十五條ニ記シタル條々モ亦通シテ用

フヘシ

第二百六十二條 窩主ノ罪ヲ犯シタル者ハ禁獄ノ外公權ヲ剥奪シ窩主ノ犯人ハ皆處決セラルヘキ本刑ノ輕重ヲ問ハス政府ノ監察ニ付ス可シ

第二百九十一條 砲隊ニテ使用スル彈藥及ヒ兵隊發放線練中岳上ヨリ砲發シタル彈丸ヲ不正ニ自己ノ所有トナシタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄又ハ三百タレレヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

○白耳義

第四百六十一條 凡詐謀ヲ用ヒ己ノ有ニ非ル物ヲ取ルヲ盜ト云フ

第四百六十二條 凡夫妻相盜ニ或ハ夫其亡妻ノ物ヲ盜ニ或ハ妻其亡夫ノ物ヲ盜ニ或尊族卑族ノ親相盜ニ或ハ以上同級ノ親族相盜ニ等ハ刑律ニ入ラス唯償還ヲ為サシム可キノミトス

若シ外人ニシテ前文ノ盜ニ與スル者或ハ其物件ヲ藏匿スル者ハ常律ニ依テ論ス可シ

第四百六十三條 凡本章ニ開載スル事狀外ニ於テ行フ盜ハ一月ヨリ五年マテノ獄ニ處シニ十六「アラシク」ヨリ五百「アラシク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百六十四條 凡婢僕其主人ノ物件若クハ

其主家ニ在ル他人ノ物件若クハ其主人ニ隨
行シ他ノ家ニ至ル片其家ニ在ル人ノ物件ヲ
盜ム者或ハ工人若クハ其徒其主人ノ家或ハ
工場或ハ倉庫ニ於テ盜ム者或ハ常ニ人ノ
住家ニ工作シ其家ニ於テ盜ム者等ハ皆三月
以上ノ獄ニ處ス可シ

第四百六十五條 凡前條ノ盜賊ハ本刑ノ外第
三十三條ノ奪權ニ處シ尚ホ二年ヨリ五年マ
テノ警察ヲ受ケシムルコトアリ

第四百六十六條 凡前數條ノ法ヲ犯サントシ
テ成ラサル者ハ八月ヨリ三年マテノ獄ニ處
シ二十六「ラ」ヨリ三百「ラ」マテノ
罰金ヲ命ス可シ

第四百六十七條 凡左ノ盜ヲ行フ者ハ監役ニ
處ス可シ

破壊或ハ超越或ハ偽鍵ヲ用テ盜ム者
官吏其官職ニ依テ盜ム者

賊若クハ賊中ノ一人官吏ノ名號或ハ官吏ノ
表記ヲ用ル者或ハ官命ヲ詐稱スル者

第四百六十八條 凡暴行若クハ恐喝ヲ以テ盜
ム者ハ監役ニ處ス可シ

第四百六十九條 凡盜賊既ニ財物ヲ取り得或
ハ逃走ヲ容易ニセントシテ追捕ヲ拒ミ暴行
恐喝ヲ為ス者ハ皆暴行恐喝ヲ用ル盜ト稱ス
可シ

第四百七十條 凡錢貨財物動産及書券証票領

收狀、契約書、署名書、等總テ必要ニ属スル書券
契約書、請取証書、類ヲ劫掠スル者ハ皆第四百
六十八條ニ依テ論シ強盜ト同罪トス

第四百七十一條 凡人ノ居宅若クハ其附属ノ
所ニ於テ暴行若クハ恐喝ヲ用テ盜ミ左ニ掲
ル五事ノ一ヲ兼ヌル者ハ十年ヨリ十五年マ
テノ懲役ニ處ス可シ

一 破壊、超越、或ハ偽鍵ヲ用テ盜ム者

二 官吏其官職ニ依テ盜ム者

三 賊或ハ賊中ノ一人官吏ノ名號若クハ官吏

ノ表記ヲ用ヒテ盜ム者若クハ官命ト偽リ

テ盜ム者

四 夜間二人以上ニテ盜ム者

五 兇器ヲ持スル者

若シ以上ノ二事ヲ兼ヌル者ハ十五年ヨリ二
十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百七十二條 凡公路ニ於テ暴行若クハ恐

喝ヲ用ヒ盜ム者ハ十年マテノ懲役ニ處ス可

シ

若シ前條五事ノ一ヲ兼ヌル者ハ十五年ヨリ
二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百七十三條 凡第四百六十八條第四百六

十九條第四百七十條第四百七十一條及第四

百七十二條ノ法ヲ犯シ因テ篤疾廢疾機器損

失或ハ重傷ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マ

テノ懲役ニ處ス可シ

若シ其人ヲ拷打スル者モ罪同シ

第四百七十四條 凡暴行恐喝ヲ為シ誤テ殺ス者ハ終身懲役ニ處ス可シ夜中人ノ居宅若クハ大道ニ於テ數人共ニ暴行恐喝スル者モ罪同シ

第四百七十五條 凡盜若クハ劫ノ為メ或ハ跡ヲ滅セント欲シ故殺スル者ハ死刑ニ處ス可シ

第四百七十六條 凡意外ノ景況ニ阻セラレ盜或ハ劫ヲ果サ、ルモ第四百七十三條及第四百七十四條ノ犯罪ハ其本刑ニ處ス可シ

第四百七十七條 凡公路ト稱スル者ハ衆人往來ノ道ヲ云フ人家ノ間ニ通ス徑及鐵路ハ公

路ニ屬セス

第四百七十八條 凡夜中盜ヲ為スト稱スル者ハ月没後一時ヨリ日出前一時マテノ盜ヲ云フ

第四百七十九條 凡居宅住屋ト稱スル者ハ家屋諸建物室房座等ヲ云フ又總テ仮リ小屋類ノ轉移ス可キ者モ住居ニ充ル者ハ皆此名稱ニ屬ス可シ

第四百八十條 凡居宅ノ附屬ト稱スル者ハ中庭

庭「バスクール」鳥獸等ノ飼園圍「カランジュ」稲麦

收ス入ル物所ヲ廐等總テ籬垣内ニ在ル者ヲ云フ或

ハ總籬笆中ニ小籬笆ノ設ヲ為ス者モ亦此類ニ屬ス可シ

第四百八十一條 凡郊野ニ在ル假ノ牧場モ其
場内ニ獸畜ノ番人小屋アル者ハ皆居宅ノ附
属トス可シ

第四百八十二條 凡第百三十五條ニ掲クル所
ノ器具ハ皆兇器トス

第四百八十三條 凡暴行ト称スル者ハ力ヲ以
テ人ノ身体ヲ苦ムルヲ云フ恐喝ト称スル者
ハ人ニ迫リ其心ヲ恐怖セシムルヲ云フ
加ルヲ暴行ヲ恐喝トスニ
加形ヲ

第四百八十四條 凡破壊ト称スル者ハ衝突シ
折毀シ打破シ舟車及家屋等内外部ノ垣ヲ去
リ又閉チタル函櫃篋子類總テ家財ヲ納ムル
ノ器ヲ打破スル者ヲ云フ

第四百八十五條 凡前條ニ云フ所ノ家財ヲ盜
ム者緘印ヲ毀チ盜ム者モ破壊シテ盜ム者ニ
属ス可シ

第四百八十六條 凡籬垣門戶室房及其他墻塀
ヲ越ヘ家屋中庭園圍牧場等ノ内ニ入ル者
地道ノ如キ通常出入ニ備ヘサル所ヨリ入ル
者等ハ皆超越シ入ルト称ス可シ

第四百八十七條 凡鉤鉤ノ種ノ用ハ開ク具ニ口シニヨル
一鉤種ノパスパルツ一何所ノ鉤ニ似セ偽造或

總テ其錠ニ備ヘサル鍵紛失シタル鍵盜マレ
タル鍵等ヲ總称シテ偽鍵ト云フ

破壊ニ依リ罪状ノ重キニ從テ可キ物件ヲ偽
鍵ヲ用テ開ク者ハ皆其重キニ從テ可シ

第四百八十八條 凡不良ノ心ヲ抱キ鍵ヲ偽造
若クハ變造スル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄
ニ處シニ十六「フランク」ヨリ二百「フランク」マ
テノ罰金ヲ命ス可シ
若シ錠ノ工人ニシテ偽鍵ヲ造ル者ハ二年ヨ
リ五年マテノ獄ニ處シ二百「フランク」ヨリ一
千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

○埃及

第二百七十五條 他人ニ屬スル動産ヲ盜ミシ
罪ヲ名ケ盜罪ト云フ

第二百七十六條 夫婦ノ同居スルト否トヲ問
ハス夫其婦ノ物ヲ盜ミ或ハ婦其夫ノ物ヲ盜

ミ又ハ子及ヒ卑屬ノ親其父母及ヒ尊屬ノ親
ノ物ヲ盜ミ或ハ父母及ヒ尊屬ノ親其子及ヒ
卑屬ノ親ノ物ヲ盜ミシ時ハ其損失ノ償ヲ為
ス可キノミトス ○前ニ記シタル景状ニ於テ
其盜罪ヲ助ケタル者又ハ其贓物ヲ全部或ハ
一部ヲ隱匿シ或ハ已レノ利益ト為シタル者
ハ盜罪ヲ犯シタルト為シ其刑ニ處セラレ可
シ

第二百七十七條

左ニ記スル五箇ノ景状ヲ合
シ盜罪ヲ犯シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラ
ル可シ

第一 夜間盜罪ヲ犯シ

第二 二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ

第三 盜者數人又ハ一人露提ノ兵器及ヒ暗藏ノ兵器ヲ携ヘタル時

第四 盜者人ノ居住シ或ハ居住ス可キ家屋又ハ房室或ハ其家屋ニ屬スル房舎ノ外部ヲ破壊シ或ハ攀援シ或ハ偽鑰ヲ用ヒ其家屋或ハ房室或ハ房舎内ニ於テ其罪ヲ犯シ又ハ文武官吏ノ衣服ヲ僭用シ或ハ官吏ノ命ヲ偽リテ其罪ヲ犯シ

第五 暴行ヲ為シ又ハ兵器ヲ用ヒシト脅迫シテ其罪ヲ犯

第二百七十八條 暴行ヲ為シ且ツ前條ニ記シタル五箇ノ景狀中其最初ノ二箇ヲ合シ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

又前條ニ記シタル五箇中其一ノ景狀ナシト雖モ暴行ヲ為シテ盜罪ヲ犯シ其暴行ニ因リ人ニ傷痕ヲ遺シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百七十九條 夜間露提ノ兵器ヲ携ヘタル一人又ハ數人道路ニ於テ盜罪ヲ犯シ又ハ晝間第二百七十七條ニ記シタル五箇ノ景狀中其二箇ヲ合シ道路ニ於テ盜罪ヲ犯シタル時ハ其犯人無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百八十條 人ノ住居スル場所ニ屬セスト雖モ塙塙植籬編籬溝ヲ以テ繞圍ヲ為セン場所ノ外部ヲ破壊シ又ハ攀援シ又ハ偽鑰ヲ用ヒテ盜罪ヲ犯

シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百八十一條 人ニ傷痕ヲ遺サス且ツ更ニ他ノ景状アラスト雖モ暴行ヲ為シテ盜罪ヲ

犯シ又ハ暴行ヲ為サスト雖モ左ノ二箇ノ景状ヲ合シ盜罪ヲ犯シタル者ハ亦有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第一 夜間盜罪ヲ犯シ

第二 二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ且ツ其中ノ一人又ハ數人兵器ヲ携帶シ

第二百八十二條 左ニ記スル場合中ノ一箇ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ三年ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第一 二人以上ニテ夜間盜罪ヲ犯シ又ハ晝

間二人以上ニテ人ノ住居スル場所或ハ禮

拜ノ為メ設ケタル場所ニ於テ盜罪ヲ犯シ

又ハ夜間一人ニテ此等ノ場所ニ於テ盜罪

ヲ犯シタル時

第二 晝間一人ニテ人ノ住居セサル場所ニ

於テ盜罪ヲ犯シタルト雖モ其犯人露提或

ハ隱藏ノ兵器ヲ携ヘタル時

第三 奴婢ノ其主家ニ於テ盜罪ヲ犯シ又ハ

其主家ニ來リシ者ニ對シ盜罪ヲ犯シ又ハ

其主人ニ隨行セシ家ニ於テ盜罪ヲ犯シタ

ル時又ハ工丁或ハ商家ノ使用ヲ受クル者

或ハ年季ノ弟子其雇主ノ家屋制作場倉庫

或ハ其通常職業ヲ為ス場所ニ於テ盜罪ヲ

犯シタル時

第四 旅舎ノ主人、水陸ノ運送人及ヒ此類ノ各人或ハ更ニ此等ノ者ノ使用ヲ受クル者其附託セラレシ物ノ全部又ハ一部ヲ盗ミシ時

第二百八十四條 田野ニ於テ物ヲ負戴セシメ車ヲ挽カシメ、騎行ニ用フル獸類或ハ大小ノ家畜獸或ハ農業ノ器具ヲ盗ミシ者又ハ繞圍ヲ為サ、ル物置ニ在ル薪、建築ニ用フル木材、石炭、半燒ノ石炭或ハ石礦ニアル石、池沼ニ在ル魚或ハ水蛭ヲ盗ミシ者ハ一月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百八十五條 既ニ刈收シタル穀艸或ハ地ヨリ産スル有益ノ各物或ハ堆積セシ穀物ヲ盗ミタル者ハ二十四時間ヨリ少ナカラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ ○又夜間二人以上ニテ右ノ盜罪ヲ犯レ又ハ一人ニテ車或ハ獸類ヲ用ヒ右ノ盜罪ヲ犯シタル時ハ其禁錮ノ刑期ヲ増シテ一年ト為スヲ得可シ

第二百八十六條 未タ地ヨリ刈收セサル穀艸或ハ地ヨリ産スル有益ノ各物ヲ籃或ハ囊及ヒ此類ノ物ヲ用ヒ或ハ車及ヒ獸類ヲ用ヒ或ハ二人以上ニテ盜ミタル時ハ其犯人八日ヨリ少ナカラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮

ノ刑ニ處セラル可シ○又前文ニ記スル景状
アラステ右ノ盜罪ヲ犯シタル時ハ其犯人
二十四時間ヨリ少ナカラス一週ヨリ多カラ
サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
第二百八十七條 盜罪ヲ犯ス為メ土地ノ境界
ヲ為ス物ヲ除去シタル者ハ十五日ヨリ少ナ
カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ
處セラル可シ

第二百八十八條 鑰又ハ其他鎖ヲ開ク可キ器
具ヲ用ヒ盜罪ヲ犯サンカ為メ鑰ヲ贋造變造
シ或ハ其他ノ器具ヲ造リタル者ハ三月ヨリ
少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ
刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト特定ノ盜罪
ヲ犯ス為メ右ノ諸物ヲ造リシ者ヲ其相當ノ
刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、トナル可シ
若シ右ノ犯人鎖匠ヲ以テ職業ト為ス時ハ有
期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百九十條 此章ニ記列セサル竊盜ノ罪ハ
三月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百九十一條 此章ニ記シタル盜罪ノ犯人
ハ其刑期ノ終リニ後五年或ハ十年ノ時間政
府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ但シ註誤
ノ刑ニ處セラレタル犯人ハ其例ニ非ラス
第二百九十二條 盜罪ヲ犯サント試ミ為シタ
ル者ハ現ニ其罪ヲ犯シタルト同一ノ刑ニ處

セラル可シ

○英吉利

凡財物若クハ証書等ヲ強盜スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ十四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キササル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ未タ盜取セサル者ハ五年ノ徒罪或ハ入獄ニ處断ス其法上ニ同シ

若シ兇器ヲ持チ或ハ二人ヲ連糾シ或ハ因テ人ヲ毆傷スル者ハ並ニ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處シ打背罪ヲ加フ強盜

凡文書ヲ以テ人ヲ恐喝シ其財物証書等ヲ強奪セントスル者五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ入獄打背罪ニ處断ス財物証書等ヲ盜ント欲シ強テ乞求スル者ハ五年ノ徒罪或ハ入獄ニ處断ス

若シ文書ヲ送り人ヲ死罪或ハ七年以上ノ徒罪ニ誣陷シ財物ヲ強奪セントスル者ハ五年ヨリ終身ノ徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處シ若クハ苦役隘牢打背罪ヲ加フ

若シ人ヲ罪ニ誣ヒ恐嚇シテ證書ヲ破壊變改收受若クハ姓名押印ヲ為サシメ或ハ他人ノ名印ヲ詐為セシムル者モ罪亦同シ止夕打背罪ヲ除免ス恐誣人強奪財物証書

凡竊盜ヲ犯ス者ハ一般ノ規則ニ重罪ニ坐シ五

年ノ徒罪或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ

若シ年十六以下ノ者犯セハ更ニ打背罪ヲ加フ

若シ三犯スル者前ニ犯ハ贖罪ニ該リ或ハ再犯スル者前輕罪ノ惡キ者ヲ犯セハ並ニ七年

ニ及フ徒罪ニ處ス如シ前重罪ヲ犯ス者ハ十年ニ及フ徒罪ニ處断ス 竊盜處刑

凡製造場ヨリ絹麻綿毛等ノ糸及ヒ器械等ヲ盜取スル者ハ賍ヲ計ヘ十シリク以上ハ十四

年ニ及フ徒罪ニ處断ス 盜製造場器物凡船舶ニ諸物品ヲ積載運出シ因テ盜取スル者ハ賍ヲ計ヘ五封度以上ハ五年ヨリ十四年ニ

至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ 盜船内物品

凡奴婢家長ノ財物ヲ盜ム者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ十四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過

キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ如シ年十六以下ノ男子犯ス者ハ判事ノ適

意ニ依テ打背罪ヲ加フ若シ監守及ヒ捕吏等官ニ屬スル所ノ財物ヲ

盜ム者モ罪亦同シ 奴婢盜家長財物凡奴僕雇人家長ノ財物ヲ那移出納シテ已レニ

入ル、者ハ罪家長ノ財物ヲ盜ムニ同シ監守及ヒ捕吏那移出納シテ已レニ入ル、者ハ監

守及ヒ捕吏官物ヲ盜ムニ同シ

若シ英國ノ銀行ノ算吏及ヒ奴僕雇人等文案ヲ捏造シ財物ヲ那移シテ已ニ入ル、者ハ終身ニ至ル徒罪ニ處断ス那移出納家長財物凡郵便吏役ノ故ラニ人ノ封書ヲ披開シ或ハ停滯シ若クハ人ヲシテ披開停滯セシムル者ハ並ニ輕罪ニ坐シ徒罪或ハ入獄ニ處ス若クハ判事ノ適意ニ依テ徒罪及ヒ贖罪ヲ併用ス若シ封書ヲ盜取隱匿破拆スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ七年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ如シ財物證書等ニ係ル封書ハ終身ニ至ル徒罪ニ處断ス

若シ摺撮スル文書或ハ新聞紙等ノ全ク緘封セス若クハ兩隅ヲ顯露スル者ヲ盜取隱匿破拆停滯等スル者ハ並ニ輕罪ニ坐シ贖罪或ハ入獄或ハ判事ノ適意ニ依テ贖罪及ヒ入獄ヲ併用ス 郵便吏役披封書

凡故ラニ財物若クハ証書等ニ係ル他人ノ封書ヲ盜ミ或ハ郵便吏役ヲ停留シテ封書ヲ盜ントスル者ハ重罪ニ坐シ罪前條ニ同シ若シ故ラニ他人ノ封書ヲ隱匿シテ吏役ニ付與セサル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處断ス 盜人封書

凡重罪ニ該ル盜贓ナルヲ知テ受ル者ハ重罪ノ後從ト為シ首盜未夕捕獲セスト雖氏五年ヨリ十四年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過

キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加
フ如シ年十六以下ノ者犯セハ判事ノ適意ニ
依テ且ツ打背罪ヲ加フ

若シ脏輕罪ニ該ル者ハ其脏ヲ受ル者モ亦輕
罪ニ坐シ七年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ
處断ス其法上ニ同シ受盗脏

凡人ノ家屋ヲ借居シ其借用スル所ノ諸品器ヲ
盗取スル者ハ重罪ニ坐シ脏ニ計ヘ五封度以
上ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ或ハ七年ニ止ル
徒罪ニ處ス五封度以下ハ止夕二年ニ止ル入
獄ニ處断ス借居人盗假借品器

凡人ノ財寶品物証書等ノ寄託ヲ受ケ因テ自ラ
詐取シ或ハ自己ノ用ト為シ若クハ他人ノ用

ト為ス者ハ縱ヒ之ヲ減破セスト雖モ竊盜ノ
罪ニ坐ス詐取寄託財物

凡竊盜未タ全ク持去セスト雖止夕其處ヲ動
移スル者ハ全ク盗取スルト罪同シ假令ハ人
ノ馬牛ヲ牧野ヨリ拽出シ或ハ旅人ノ客舎ニ
属スル所ノ器物ヲ其室内ヨリ持出シ或ハ盜
ノ厨内ヨリ磁器ヲ取出シ之ヲ床上ニ置クカ
如キ並ニ未タ全ク持去セスト雖モ仍ホ竊盜
罪ニ坐スルヲ云フ竊盜未全持去

凡奴婢家長ノ命令ニ違反シ私ニ其穀物ヲ取出
シ縱ヒ家長ノ馬牛羊犬等ニ投與スト雖モ仍
ホ羅卒裁判所ニ於テ即日贖罪ニ處断ス奴婢
移婢
家長穀物

凡馬牛羊豚ヲ盜取スル者ハ五年ヨリ十四年ニ
 至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ
 處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ 盜馬牛羊豚
 凡強盜謀殺強姦等ヲ犯サント欲シ夜暮九字ヨ
近ノ間人ノ居住スル房屋墻垣門窓等ヲ破壞
ヲ云シテ侵入スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身
 ノ徒罪ニ處シ或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ若
 クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ
 若シ已ニ内ニ在テ重罪ヲ犯シ後破壞シテ脱
 出スル者及ヒ一時家内ニ人ナク或ハ止夕窓
 戸ヲ排擠シ鎖鑰ヲ解脫シ若クハ闖ヲ越ヘ或
 ハ止夕手ヲ入ル、者ト雖凡皆同シ
 其幕居茅厰等ノ暫時ノ為メニ建置シテ永久

ノ為メニアラスル者或ハ白晝ニ人ノ居住ス
 ル家ト雖凡夜ハ之レニ寢居セサル者ハ此限
 ニアラス 夜破入人房屋
 凡夜人ノ門戸ヲ扣キ開クニ及ニテ突入シ或ハ
 家ヲ借居セント詐稱シ内ニ在テ強盜ヲ犯ス
 者ハ自ラ家屋ヲ破壞セスト雖モ仍ホ夜破入
 人房屋律ニ依テ論ス
 若シ奴婢重罪ヲ犯サント欲シテ其家長ノ室
 内ニ侵入シ或ハ重罪ヲ犯サント欲シテ其同
 居同旅ノ者ノ室内ニ入ル者ハ並ニ戶外ヨリ
 破壞シテ入ルニアラスト雖モ亦夜破入人房
 屋罪ト同シ

若シ奴婢他人ヲ誘引シテ家長ノ家ニ侵入セシ

ムル者モ亦各同シ夜扣人門戸犯盜

凡夜人ノ房屋ヲ破壊スヘキ兇器ヲ持テ或ハ面
色ヲ塗リ容體ヲ變レ人ノ家屋内ニ在ル者ハ
輕罪ニ坐シ五年ノ徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過
キサル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ

若シ再犯スル者或ハ前重罪ヲ犯シ後此罪ヲ
犯ス者並ニ十年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ入獄
ニ處断ス其法上ニ同シ夜持兇器塗面色在人
家屋内

凡宮社寺院等ヲ破壊シテ侵入シ因テ内ニ在テ
重罪ヲ犯ス者ハ神位ヲ輕侮スル罪ニ坐シ夜
破入人房屋律ト罪同シ

若シ未タ内ニ在テ重罪ヲ犯サ、ル者ハ二年
ニ過キサル入獄ニ處シ或ハ七年ニ止ル徒罪
ニ處断ス破入宮社寺院等

凡白晝人ノ房屋倉庫店舎等ヲ破壊シテ侵入シ
因テ重罪ヲ犯シ或ハ已ニ内ニ在テ重罪ヲ犯
シ後破壊シテ脱出スル者ヲ並ニ五年ヨリ十
四年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處断ス

若シ未タ内ニ在テ重罪ヲ犯サ、ル者ハ前條
ノ未タ犯サ、ル者ト罪亦同シ白晝破入人房
屋倉庫店舎等

凡夫婦共ニ謀リ婦自ラ之ヲ行フト雖モ婦ハ法
ニ於テ平常夫ノ使令ニ聽從シテ事ヲ行ヘハ
止タ其夫ヲ罪ニ坐シ婦ハ坐セス

其謀及大逆及ヒ人命若クハ窩娼等ハ此限ニ
アラス
若シ婦夫ノ衣物ヲ盜取スル者モ亦夕法ニ於

テ夫婦ハ一物トスレハ婦ヲ盜罪ニ坐スルヲ得ス

若シ婦ニ姦夫アリテ之カ為メニ夫ノ衣物ヲ

盜ミ付與スルニ姦夫明ニ其盜贓ナルヲ知テ

收受スレハ止テ姦夫ヲ盜罪ニ坐シ婦ハ坐セ

ス夫婦共謀

凡賄賂ヲ受ケ重罪ヲ犯ス罪犯ヲ官ニ告ルヲ

免ルシ或ハ盜マル、所ノ贓物ヲ復還シ盗ト

私和スル者ハ贖罪及ヒ入獄ニ處断ス

若シ新聞紙示衆帖等ニ盜失遺失ノ財物ヲ復

還スル者アレハ若干ノ褒賞ヲ與ヘ其所由ヲ

訊究シ捕獲スルヲ為サスト書シ若クハ典

當骨董鋪等ノ其贓ヲ復還スル者ハ其收買ス

ル處ノ價錢ヲ償還セシト書スル者ハ事主割

刷師販賣スル者各五十封度ノ贖罪ニ處断ス

私和盜罪

○プロイセシ

千八百五十一年四月十四日ノ刑法

第二百三十條 凡人ニ對シ擅權ヲ以テシ或ハ

眼前ニ身体若クハ生命ノ危難ニ關スル脅迫

ヲ施シ妄ニ我カ有ト為ス可キノ故意ヲ以テ

他人ノ動産ヲ奪ヒ取ル者ハ強盜ノ罪犯ナリ

トス

凡竊盜ヲ公然ト為シ強盜ニ其竊取セシ財產

ヲ已レノ所行中ニ抱持センカ為メニ人ニ對

シ擅權ノ所行ヲ加ヘ或ハ眼前ニ身体若クハ

生命ノ危難ニ關スル脅迫ヲ施行シタル者ハ強盜ト同一ニ見做ス可キナリ

第二百十五條 凡ソ他人ノ動産ヲ已レカ固有品ト為サント欲スルノ目的ヲ以テ之ヲ妄ニ盜取ル者ハ竊盜ナリ

○サツキセン 千八百六十八年十月一日改正ノ刑法

第二百七十七條 凡人ニ對シ擅權ヲ行ヒ而ノ現ニ脅迫セララル、人若クハ其緣故アル人ノ生命及ヒ身体ノ危難ニ關スヘキ脅迫ヲ言語上又ハ所為上ニ於テ施シ貪欲ナル故意ヲ以テ他人ノ動産ヲ掠奪シ或ハ不法ニ略取スル者ハ之ヲ強盜トシテ處決ス可キナリ

第二百七十二條 凡ソ實價アル他人ノ動産ヲ已レク固有物ト為シ以テ自己或ハ他人ノ為メニ不正ノ利益ヲ射ルヨリ本主ノ許可ヲ得スシテ之ヲ盜取ル者ハ竊盜ノ罪犯ナリトス但シ右動産ニ就テ原有主アリ又假有主アリテ其一人之ヲ許容シタルナラハ已ニ竊盜ノ困範ヲ脱スルナリ

第二百七十三條 凡ソ竊盜ハ其ノ盜取ラント注目セシ所ノ物品ヲ已レニ掌握スル時正ニ全ク其行ヲ遂ケタリト認定ス可シ

○ヘツセン 千八百四十年九月

第三百四十四條 凡ソ他人ノ動産ヲ不法ニ利

セントスルノ目的ヲ以テ其所有主或ハソノ
場所ニ會セル人ニ對シ腕力ヲ加フルノ所行
或ハ現ニ施行スルノ故意ヲ以テセル危難ノ
脅迫ヲ為ス者ハ強盜ノ罪犯ナリトス

第三百四十五條 凡竊盜ヲ為スニ當リ其所行
ノ為ノニ取用セシ器具ノ外別ニ凶器ヲ携ヘ
之ヲ以テ竊取セシ動産ヲ確乎ト已レノ所有
中ニ抱持センカ為ノ前條ニ記シタル如キ腕
力又ハ脅迫ヲ施行セシ者ハ強盜ト同一ノ罪
犯ナリトス

第三百五十四條 凡ソ他人ノ動産ヲ已レカ固
有ト為スニ其原有主ノ許可ヲ得ス而ノ其人
ニ對シ威權ヲ以テセシテ浪リニ之ヲ利セ
シカ為メニスル者ハ竊盜ノ罪犯ナリトス
第三百五十五條 凡ソ贓品ヲ自己ノ所有ト為
シ或ハ金ヲ得ルト否トヲ論セス其贓品ヲ他
人ニ賣與セント欲スルノ目的ヲ以テ為シタ
ル者亦皆ナ同シトス

○チユーリシギシエ、スタ一テン 八千

年百四十九
刑法

第百五十二條 凡他人ノ動産ヲ我カ有ト為シ
因テ自己又ハ他人ノ為メ不法ナル利益ヲ
營マントスルノ目的ヲ以テ人ニ對シ腕力ノ
暴行若クハ眼前ニ身体又ハ生命ノ危難ニ關
スヘキ脅迫ヲ加ヘタル者ハ之ヲ強盜トシテ

處決ス可シ或ハ竊盜ノ所行ニ涉リタル片其
竊取シタル財産ヲ確乎ト已レノ所有中ニ抱
持センカ為ノ人ニ對シ腕力若クハ脅迫ヲ加
ヘタル者亦強盜トシテ處決スヘキナリ

第二百十三條 凡ソ原有主ノ許可ヲ得ル丁ナ
ク又假有主ノ所持物ト成リタル片ニ於テ他
人ノ動産ヲ已レカ固有物ト為シ自己或ハ他
人ノ為メニ不正ナル利益ヲ占ムルノ目的ヲ
以テ原有主又ハ假有主ノ動産ヲ盜去ル者ハ
竊盜ノ罪犯ナリ

第二百十五條 凡ソ盜人他人ノ動産ヲ竊取シ
タル片正シク竊盜ヲ全成セリト為ス若シ未
タ其動産ヲ確乎ト取領シタルニ非ル片モ亦
竊盜ト做スヘキナリ

○ヲルデンブール

千八百五十八年七月三日ノハ

刑法

第一條 凡他人ニ對シ擅權ヲ以テシ或ハ身体
又ハ生命ノ危難ニ關スヘキ脅迫ヲ施シ其動
産ヲ我カ有ト為サントスルノ目的ニ由テ奪
ヒ取ル者ハ強盜ノ罪犯ナリトス

第二條 凡竊盜ヲ公然ト為シ(強盜ニハ非ラス)因テ其竊
取シタル財産ヲ確乎ト已レノ所有中ニ抱持
センカ為ノ人ニ對シ擅權ノ所行ヲ加ヘ或ハ
眼前ニ身体又ハ生命ノ危難ニ係ル可キ脅迫
ヲ施行シタル者ハ強盜ト同視スヘキナリ

刑法

○ブラーウニシユウツイク

千八百四十年七月十日

法ノ刑

第百七十五條 凡竊盜ヲ為サンカ為ノ人ニ對シ擅權ノ所行ヲ加ヘ或ハ危難ナル脅迫ヲ加フル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ下文之ニ畧ス

第二百十三條 凡他人保護ノ動産タルヲ知リナカラ其權主ノ許諾ナクシテ之ヲ已レカ固有ト為サンカ為メニ盜取リ而メ其所為ハ威權ヲ以テスルニ非ス只不正ナル貪欲ヲ遂ルノ目的ニ於テスル者左ノ罪科ニ處セラル可シ(下文略之)

○リベツク

千八百六十三年七月二十日ノ刑法

第百九十四條 凡人ニ對シ擅權ノ所行ヲ加ヘ或ハ眼前ニ身体又ハ生命ノ危難ニ係ル脅迫ノ所行ヲ施シ妄ニ我カ有ト為サントスルノ目的ヲ以テ他人ノ動産ヲ奪ヒ取ル者ハ強盜ノ罪犯ナリトス
凡竊盜ヲ公然ト為シタル時其竊取シタル財産ヲ確乎ト已レノ所有中ニ抱持センカ為ノ人ニ對シ擅權ノ所行ヲ加ヘ或ハ眼前ニ身体又ハ生命危難ニ係ル脅迫ヲ施行スル者ハ強盜ノ罪犯ナリトス

ハムブールク

千八百六十九年四月三十日ノ刑法

第四百十九條 凡人ニ對シ擅權ノ所行ヲ加ヘ
或ハ眼前ニ身体又ハ生命ノ危難ニ係ル脅迫
ヲ施行スル如キ不正ノ方法上ニ於テ他人ノ
動産ヲ我カ有ト為サシカ為ノニ掠奪シ或ハ
不法ニ略取スル者ハ徒刑ニ處セラル可シ下
文之ヲ略ス

第一百八十三條 凡威權ヲ以テスルニハ非ス凡
權主ノ許諾ヲ得スシテ他人保護ノ動産ヲ盜
ニ去リ而ノ不正ナル貪欲ヲ遂ルノ目的ニ因
テ之ヲ已レカ固有物ト為サント欲スル者左
ノ罪科ニ處セラル可シ

ハムブールク 千八百六十九年十一月十日ノ刑法

第三百條 凡人ノ動産ヲ妄ニ我有ト為スノ
目的ヲ以テ人ニ對シ身位ノ權威ヲ擅行スル
ノ方便ニ依リ或ハ現然ニ身体又ハ生命ノ危
難ニ係ル脅迫ヲ加フルノ方便ニ依テ攘奪ヲ
行フ者ハ強盜ノ罪犯ニ從ヒ處決セラル可シ

下文之ヲ略ス

第二百七十一條 凡威權ヲ以テセスシテ漫ニ
已レカ固有物ト為サント欲スルヨリ他人保
護ノ動産ヲ盜ニ去ル者ハ竊盜ノ罪犯ナリト
凡他人ノ動産ヲ盜ニ取リ之ヲ已レノ所有ト
為シ或ハ之ヲ已レノ權内ニ握リシ片正ニ全
ク竊盜罪犯ヲ遂ケタリト為ス

○ウールテムベルグ

千八百三十一年三月一日ノ

刑法

第四百十條 凡動産ノ所有主ニ對シ或ハ其場所ニ會セル人ニ對シ所有上ノ擅權ヲ施シ或ハ直ニ實行ス可キ危難ノ暴殺又ハ至重ノ身体毆撃ニ係ル脅迫ヲ行セ或ハ其他身体又ハ生命ノ危難ニ關シ憂虞ノ原因ヲ醸發スルノ所行ヲ加ヘ以テ動産ヲ奪ヒ取ル者ハ強盜ノ罪犯トシテ處決セラル可シ

第四百十一條 凡盜人所為上ノ擅權或ハ脅迫ハ其他前第四百十條ニ論シタル種類ニ屬セル強盜ノ所行ニ依テ竊盜ノ成蹟即チ竊取シタル動産ヲ確乎ト已レノ所有中ニ抱持セン

ト為ス片ハ強盜ト同般ノ刑ニ處セラル可シ
第三百十六條 凡他人ノ動産タルヲ知りナクテ其原主ノ許可ヲ得スシテ之ヲ盜取リ而ノ其威權ヲ以テスルニ非ス不正ナル法ヲ以テ已レカ固有物ト為サント欲スルノ目的ニ出ル者ハ竊盜ノ罪犯ナリトス

第三百十七條 凡他人ノ動産ヲ盜取リ之ヲ已レノ權内ニ握リシ時即チ竊盜罪犯ヲ遂ケタリト為ス

○シユウエーデ

千八百六十四年二月十六日ノ刑法

第二十一節第一條 凡人ニ對シ擅權ヲ用セ或

ノ目的ヲ以テ犯シタル罪ヲ強盜ト見做ス可
キモノハ即チ該罪眼前ノ擅權ニ依リ及ヒ兇
器ヲ持シ犯シタルニ涉リシキ或ハ兇器ヲ持
シ犯シタルニハ非レ氏故殺又ハ故殺ノ既行
未成ニ涉リシキ或ハ不具創傷毆擊又ハ其他
ノ痛患ニ涉リタルキ或ハ此ノ如キ脅迫ニ依
リ若クハ其人ノ生命健康又ハ自由ノ危難ニ
罹ルヘキ所行ニ依テ犯シタルニ涉リシキ等
ナル可シ

第一千六百三十七條 凡尋常ノ強盜ト見做ス可

キモノハ

第一 何人タルヲ論セス其人ニ屬シ或ハ其
手中ニ現存スル財産ヲ攘奪スルニ擅權若
クハ脅迫ヲ以テシ而シテ此脅迫擅權ニ因リ
強盜ヲ受タル人ノ生命健康又ハ自由ノ危
難ニ罹ルヘキニ至ラサルノ方法ヲ以テ為
シタルニ涉ルキ

第二 仮令脅迫及ヒ擅權ニ依テ為シタルニ
非ルモ公然ト固有主又ハ其他ノ人ノ眼前
ニ於テ何等ノ財産タルヲ論セス之ヲ略取
センニ涉ルキ

凡他人ノ家私什具金貨及ヒ其他ノ動産ヲ何
レノ方法ニ論ナク竊ニ之ヲ盜取り而シテ威權
脅迫等都テ純然タル強盜所為ノ景況ナキ者
ハ竊盜ノ罪犯ナリトス

○アレヘメシ

千八百六十八年ノ草案

第三百九十八條 凡人ニ對シ擅權ヲ行フニ依リ或ハ眼前ニ身体又ハ生命ノ危難ニ係ル脅迫ヲ加フルニ依リ他人ノ動産ヲ不法ニ我カ有ト為スノ目的ヲ以テ之ヲ攘奪スル者ハ強盜ノ罪犯ナリトス

第三百九十九條 凡竊盜ノ所行ヲ公然ト為シタルニ方リ其竊取シタル財産ヲ確乎已レノ所有中ニ抱持センカ為メ人ニ對シ擅權ヲ行ヒ或ハ眼前ニ生命又ハ身体ノ危難ニ係ル脅迫ヲ加ヘタル者ハ強盜ト同視ス可キナリ

第三百七十條 凡他人ノ動産ヲ妄ニ已レカ固ル者ハ竊盜ノ罪犯ナリ

○アリスタリ也

千八百六十七年ノ草案

第二百五十五條 凡他人ノ動産ヲ自己又ハ他人ノ固有ト為サンカ為メ人ニ對シ擅權或ハ擅權上ノ脅迫ヲ加フルニ依テ(第六條)攘奪ヲ行フ者ハ強盜ノ重罪ト見做ス可シ

凡強盜ニ依テ已レノ固有ト為サン丁ヲ注目セシ動産ノ萬一現存セサルカ如キモ強盜ノ既行未成タル罪科ヲ免レ得ヘカラサルナリ

第一百十六條 凡某人又ハ其親縁アル人ニ對シ身体折傷ヲ以テセル脅迫ヲ擅權ノ脅迫ト見做スヘキモノハ脅迫ヤラル、人其身体折傷

ノ脅迫ヲ直ニ加ヘラレシトテ憂懼ヲ抱ク可
キ景況中ニ於テ之ヲ成シタル所ニ在リトス
凡某人ノ近縁アル人トハ上系及ヒ下系ノ親
屬或ハ兄弟姉妹若クハ兄弟姉妹ノ子女或ハ
最近ノ横系親屬又ハ婦若クハ夫或ハ自然解
婚セシ者或ハ婚約アル人或ハ一等及ヒ二等
親ニ於ケル婚屬或ハ選舉父母及ヒ教育父母
若クハ其子女或ハ後見人又ハ其後見ヲ受ク
ヘキ年少者等ヲ謂フ而メ諸人其人ニ對シ其
保護ヲ為スヘキ特別ノ義務アル人亦此ニ屬
ス可シ

第二百六十五條 凡甲人保護ノ動産ヲ妄ニ盜
取リ而メ之ヲ自己或ハ他人ノ固有物ト為サ
シカ為ニスル者ハ竊盜ノ罪犯ナリ

○チユーリビ

千八百六十
六年ノ草案

第二百五十六條 凡某人ニ對シ擅權或ハ眼前ニ
身体又ハ生命ノ危難ニ罹ルヘキ脅迫ヲ以テ
他人ノ動産ヲ己レノ固有ト為サンカ為メ不
法ニ攘奪スル者ハ強盜ノ罪犯ニ處セラレ可
シ或ハ竊取シタル財産ヲ確乎ト己レノ所有
中ニ抱持センカ為メニ右ノ如キ舉作ヲ施ス
者ハ強盜ニ依テ論決セラレ可シ

第百六十四條 凡實價ヲ有スル他人ノ動産ヲ
妄ニ己レカ固有物ト為サンカ為メニ其本主
ノ許可ヲ得スシテ之ヲ盜ニ去ル者ハ竊盜ノ

罪犯ナリ

○バーデン

日千八百五十四年三月六

刑法ノ

第三百七十六條 凡甲人ノ所有物ナル動産ヲ
己レカ固有物ト為シ以テ自己及ヒ乙人ノ為
メニ不正ナル利益ヲ管マント欲スルヨリ之
ヲ盜ミ去ル者ハ窃盜ノ罪犯ナリトス

第六十二 監守自盜ノ罪

○佛蘭西

第一百六十九條 收税官及ヒ公然ノ金銀ヲ管守
スル者及ヒ算計ヲ為ス者等ノ公私ノ金銀及
ヒ其金銀ノ證券又ハ其他職務ニツキ管守ス
ル諸般ノ證券類及ヒ動産金銀衣服家什等ノ
搬運ス可キ物ヲ云ノ
等ヲ贓物ト為タル者ノ其贓物ニ於テ若シ三
千フランク以上ノ額ニ當ル時ハ有期ノ徒刑
ニ處セラレ可シ

第一百七十條 其既ニ交收シ又ハ管守レタル金
額及ヒ證券等ニ管スル時其交收シ又ハ管守
シタル額ノ三分ノ一ニ均シク及ヒ過タル價
額ヲ贓物トナシ又開手銀テツケキヲ受ク可キ交引鋪

ニ屬シタル交收セシ額及ヒ管守スル額等ニ
管スル時其開手銀ニ均シク及ヒ過タル價額
ヲ贓物トナシ又開手銀ナク年賦月賦等ニ於
テ交收セシ額ニ管スル時一月間ニ交收シタ
ル額ノ三分一ニ均シク及ヒ過タル價額ヲ贓
物ト為ス等ノ時ニ於テハ其贓物ト為タル金
額證券等ノ額ノ如何ナルヲ問ハス亦其犯人
ヲ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

第百七十一條 贓物ノ額ノ三千「フラン」以下
ニシテ且前條ニ記シタル額ニ至ラサル時ハ
其犯人ニ於テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ其上日後
公務ヲ行フ可ラサルノ言渡ヲ受ク可シ

第百七十二條 前三條ニ記シタル場合ニ於テ
ハ其犯人ニ於テ必ス償還ノ額ノ四分一ヨリ
多カラス十二分ノ一ヨリ少カラサル罰金ノ
言渡ヲ受ク可シ

第百七十三條 裁判役支配人長官及ヒ其他公
務ニ管スル官吏等其職掌ニ於テ管守ヲ為ス
證書類及ヒ其職掌ニツキ交付ヲ得タル證書
類等ヲ故ラニ遺失シ或ハ藏匿シ又ハ贓物ト
為タル者ハ有期ノ徒刑ニ處ヒラル可シ
政府ヨリ委任ヲ受ケン者及ヒ下等ノ官吏又
ハ公然ノ金銀及ヒ證書類等ヲ管守スル官署
ノ委任ヲ受ケン者及ヒ下等官吏等ノ若シ同
罪ヲ犯シタル時ハ同刑ニ處セラル可シ

第二百五十四條 證書類ヲ藏スル官署又ハ裁判所ノ書記房又ハ公然ノ書類ヲ藏スル場所等ニ貯ヘ及ヒ政府ヨリ任ヲ受ケレ看守人ニ管守セシメタル犯罪ノ證書犯罪訴訟ノ證書及ヒ其他ノ證書類簿冊證票等ノ竊取亡失及ヒ攘奪等ヲ受ケレ事アル時ハ其懈怠セシ書記官書類ヲ管守スル者及ヒ「ノテール」又ハ其他ノ看守人等ニ於テ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百五十五條 前條ニ記シタル所ノ竊取亡失及ヒ攘奪等ノ罪ヲ犯シタル者ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セララル可シ

若シ看守人ニ於テ自カラ其罪ヲ犯シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第二百五十六條 緘印ノ破毀又ハ書類ノ竊取亡失及ヒ攘奪等ノ事ニツキ人ニ對シテ暴行ヲ加フルノ罪アル時ハ其犯人ニ於テ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ但シ此規則ト具暴行及ヒ其暴行ニ附加シテ犯シタル重罪等ノ種類ニ因リ有期ノ徒刑以上ノ刑ニ處ス可キ規則ト相抵觸スル事ナカル可シ

第三百八十六條

第四 旅舎ノ主人、御者舟師及ヒ其代人等ニ於テ其職業ニツキ委托ヲ受ケレ物ノ全部

又ハ一部ヲ盗ミレ時

此等ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處ス可シ

第四百條 第三項

負債ノ為メ自己ニ於テ討還ヲ受ク可キ品物ヲ其管守中ニ亡失シ及ヒ竊取シ又ハ亡失及ヒ竊取セント為タル者ハ第四百六條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

第四百八條

千八百六十三年第五月十三日如左換フ

自己ニ於テ

借受、受寄及ヒ典當ノ受寄又ハ借用或ハ雇直ヲ得タル操作及ヒ雇直ヲ得サル操作等ノ為メ又ハ還與ヲ為スノ約束及ヒ同價ノ物ヲ還與ス可キノ約束或ハ預定ノ用法ヲ為ス可キ

為メ等ニツキ交付ヲ得タル證券、金銀、商品、證券、還與ノ證書又ハ其他借受及ヒ算還等ノ證書類等ヲ其所有者ノ害トナル可キ方法ヲ以テ竊取シ及ヒ費耗セシ者ハ第四百六條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

官署裁判等ニ管スル官吏ニ於テ前文ニ記セシ人ノ信ニ背クノ罪ヲ犯シ又ハ奴僕、雇丁、弟子、書記官、家僮、工丁及ヒ期限ヲ定メ使役ヲ受ル僮奴等ノ其主ニ對シ其罪ヲ犯シテ害ヲ為タル時ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラる可シ

但シ此規則ト第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十六條等ニ記載セシ官署ニ藏ス

ル金銀證書等ノ類ヲ竊取、攘奪スルノ罪犯ヲ
罰スルノ規則ト相抵觸スル事ナカル可シ

○獨逸

第二百六十六條 左ノ人々ハ信義ヲ背キタル
罪トナシ禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪シ或ハ
兩刑ノ内一ニ從ヒ唯禁獄ニ處スルヲ得ヘ
シ

第一 後見人監察人財産支配人贓物預人紛

撒管財人遺言狀施行人創業支配人ハ創業ト

開寺ヨラス事ヲ起スコレニテタトヘハ若シ自ラ委託ヲ受ケ看守スヘキ人及ヒ其

物件ニ付故ラニ害トナルヘキ事ヲ為シタ

ル時

第二 人ヨリ委狀ヲ受ケタル代理人委託シ

タル人ノ權利等貸金銀云及ヒ財産ヲ故ラニ害

トナルヘク費用シタル時

第三 檢地官評價人仲買人官ヨリ相場會社

人運漕司商用世話人ノ事ト仲買人尺度官檢

査司貨之幣改役ノ銀大小試檢司重モル事

船舶荷物支配人其餘職業ニ付官廳ニ於テ

誓詞ヲ為シタル者若シ其媒合ヲ以テ為ス

可キ事件ニ付其委託シタル者ノ為メ故ラ

ニ害ヲ為シタル時

若シ已ニ利ヲ得ル為メ或ハ他人ニ利ヲ得セ

シムルノ目的ニテ信義ヲ背キタル事ヲ為シ

タル片ハ禁獄ノ刑ノ外千ターレルニ至ル罰
金ニ處スヲ得可シ

第三百五十條 官吏職務上ニテ受取り又ハ其
職務ニヨリ監臨主守シタル貨幣又ハ物件ヲ
騙取シタル者ハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ
處シ仍ホ公權ヲ剝奪スルヲ得ヘシ
之レヲ犯サントセシ所行モ亦罰スヘシ

第三百五十一條 騙取ノ時ニ於テ官吏會計簿
冊雜事ヲ登記スル為メニ供シタル簿冊ハ出
入額檢査ノ為メニ設ケタル簿冊ニ正シク記
録セス又ハ之レヲ變造シ又之レヲ毀棄シ又
ハ其會計簿冊雜事簿冊等ヨリ不正ノ勘定表
ヲ摘出シ又ハ不正ノ摘撮文ヲ出シ又ハ不正

ノ證書ヲ出シ又ハ其時ニ於テ貨幣ノ入リタ
ル函袋包ニニ虚偽ノ金号ヲ記シタル者ハ十
年ヨリ長カラサル徒刑ニ處スヘシ
若シ酌量輕減アルトキハ六月ヨリ短カラサ
ル禁獄ニ處スヘシ

第三百五十三條 政府ノ會計ノ為メ租稅等ノ
收納ヲ司リタル官吏取立ツヘカラサル租稅
等ヲ收納シ又ハ取立ツヘキ租稅高ヨリ多ク
收納セシメ又ハ其現在取立タル租稅ノ全部
又ハ一部ヲ騙取シタル者ハ三月ヨリ短カラ
サル禁獄ニ處スヘシ

官吏政府會計ノ精算ヲ為スニ其貨幣物件ノ
區別ナク故ラニ或ハ不正ニ之レヲ減少シ其

減少シタル高ヲ全部ニ組入レ正當ニ精算シタルト會計簿ニ掲載シタル者ハ皆同刑ニ處スヘシ

○白耳義

第二百四十條 凡内外官吏其職分若クハ其官職ノ地位ヲ負ミ己レ管理スル所公私ノ金銀楮幣書券証票等ヲ私利スル者ハ監役ニ處ス可シ

若シ其賍受ル所俸錢ノ額ニ越ヘサル者ハ一月ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百四十五條 凡内外官吏錢穀貨物等ヲ管シ計算賣買等ノ事務ニ依リ公物ヲ以テ私利

ヲ營ム者若クハ介者ヲ用ヒ私利ヲ行フ者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ三千「フランク」マテノ罰金ヲ命シ尚ホ第三十三條ノ奪權ニ處スル「アリ

但其事務ト位地トノ故ニ因リ私利ヲ營ミ得ス且其事ノ公ケニ出ル者ハ論スル勿レ

第四百九十一條 凡物件貨幣商品商價証票紙幣請取書及其他義務若クハ免務証券ノ依託ヲ受ケ之ヲ返ス可キヲ約シ或ハ之ヲ他人ニ交付ス可シト約シ或ハ之ヲ某ノ事ニ用フ可シト約シナカラ之ヲ私ニ利シ或ハ自カラ用ヒテ寄放人ニ損失セシムル者ハ一月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ五百

アラシクマテノ罰金ヲ命ス可シ
以上ノ犯人ハ本刑ノ外尚ホ第三十三條ノ奪
權ニ處スルヲアリ

第四百九十二條 凡第四百六十二條ノ法ヲ以
テ前條ノ輕罪ニ的決スルヲ得可シ

○埃及

第百十一條 官金又ハ官物ヲ預カル者之ヲ私
スル時ハ其私セシ高ノ二倍ヲ官ニ還シ且ツ
五年ヨリ少ナカラサル時間繫獄ノ刑ニ處セ
ラル可シ○其犯人ハ右ノ刑ノ外向後決シテ
諸般ノ級位ヲ得及ヒ公務ヲ行フ可カラサル
ノ禁ヲ受ク可シ

第百十二條 政府ノ算計ノ為メ各種ノ物件ヲ
賣買シ又ハ製造ス可キ任ヲ受ケタル者其賣
買又ハ價高ノ取極メ又ハ物件分量ノ檢視或
ハ其物件種質ノ檢視ヲ為スニ方リ詭欺ヲ用
ヒテ已レニ利ヲ得又ハ他人ノ為メ利ヲ得セ
シメ政府ニ損害ヲ加ヘタル時ハ官金ヲ私セ
シ罪アリト為シ前條ニ記セシ刑ニ處ワラル
可シ

第百十九條 行政官吏又ハ會計官吏其方法ノ
如何ヲ問ハス官金ヲ已レニ私シ又ハ他人ノ
此罪犯ヲ行フヲ助ケシ時ハ其職ヲ罷メラレ
且ツ三月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサ
ル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ六月ヨリ少

ナカラス三年ヨリ多カラサル時間追放ノ刑ニ處セラル可シ但シ此犯罪人ニ贖造ノ罪アル時ハ之ヲ其相當ノ刑ニ處ス可シ

第二百八十二條 左ニ記スル場合中ノ一箇ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ三年ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四 旅舎ノ主人、水陸ノ運送人及ヒ此類ノ各人或ハ更ニ此等ノ者ノ使用ヲ受クル者其附託セラレシ物ノ全部又ハ一部ヲ盜ミシ時

第三百五條 借受、附託、質入ノ為メ或ハ雇賃ノ有無ヲ論セス人ニ代テ用ヲ達スル為メ人ヨリ動産、金銀、商品、手形、義務ノ証書、義務解除ノ証書ヲ受取り後ニ其所有者或ハ他人ノ為メ之ヲ示シ或ハ賣拂ヒ或ハ定ヨリシ用法ニ之ヲ用フ可キニ若シ其約ニ背キテ此等ノ諸件ヲ竊取シ又ハ已ノ益ニ用ヒテ其所有者ノ為メ害ヲ為シタル者ハ二月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且フ損害償還高ノ四分一ニ當レル罰金ヲ言渡サル可シ

○英吉利

凡奴婢家長ノ財物ヲ盜ム者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ十四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加

フ如シ年十六以下ノ男子犯ス者ハ判事ノ適
意ニ依テ打背罪ヲ加フ

若シ監守及ヒ捕吏等官ニ屬スル所ノ財物ヲ
盗ム者モ罪亦同シ奴婢盜家長財物

凡人ノ財寶品物証書等ノ寄託ヲ受ケ因テ自ラ
詐取シ或ハ自己ノ用ト為シ若クハ他人ノ用
ト為ス者ハ縱ヒ之ヲ減破セスト雖モ竊盜ノ
罪ニ坐ス詐取寄託財物

凡人ノ為メニ送與スヘク若クハ貯藏スヘク或
ハ為メニ品物ヲ收買スヘキ金銀證書等ノ囑
託ヲ受ケ却テ私ニ自己ノ用若クハ他人ノ用
ト為ス者ハ輕罪ニ坐シ五年ヨリ七年ニ止ル
徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過サル入獄ニ處シ若

クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ利用人囑託物

凡人ノ家屋ヲ借居シ其借用スル所ノ諸品器ヲ
盜取スル者ハ重罪ニ坐シ贓ニ計ヘ五封度以
上ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ或ハ七年ニ止ル
徒罪ニ處ス五封度以下ハ止夕二年ニ止ル入
獄ニ處断ス借居人盜假借品器

凡奴婢家長ノ命令ニ違反シ私ニ其穀物ヲ取出
シ縱ヒ家長ノ馬牛羊犬等ニ投與スト雖モ仍
ホ選卒裁判所ニ於テ即日贖罪ニ處断ス奴婢
那移
家長穀物

凡奴婢雇人家長ノ財物ヲ那移出納シテ已レ
入ル、者ハ罪家長ノ財物ヲ盜ムニ同シ監守
及ヒ捕吏那移出納シテ已レ入ル、者ハ監

守及ニ捕吏官物ヲ盜ムニ同シ
若シ英國ノ銀行ノ算吏及ニ奴僕雇人等文案
ヲ捏造シ財物ヲ那移シテ已ニ入ル、者ハ終
身ニ至ル徒罪ニ處断ス 那移出納家長財物

○プロイセン 千八百五十一年四月
十四日ノ刑法

第二百二十五條 凡他人ノ動産ヲ監守スヘキ
支配スヘキ還與スヘキ或ハ交與スヘキ
或ハ職人ノ請合ナリル義務ヲ以テ之ヲ所有シ
及ニ保有シ而シテ其原有主所有主或ハ假有主
中ニベク國ノ刑法書第百八十九條ノ損害ト
為ルヘキ方法ヲ以テ其動産ヲ他人ニ與ヘ或
ハ賣拂ヒ或ハ典當ト為シ或ハ費耗シ或ハ總
テ他方ニ周旋スル者等ハ監守自盜ノ罪犯ナ
リ

第二百二十六條 凡他人ノ動産ヲ發見シ即チ
偶然ニ之ヲ已レノ所有ト為セシ人其原有主
所有主假有主ノ損害ト為ルヘキ方法ヲ以テ
之ヲ典當ト為シ或ハ費耗シ或ハ他方ニ移置
シ或ハ他人ニ屬スル所有物ニシテ偶然ニ得
タルヲヲ熟知シテカラ偽テ之ヲ官署ニ持出
シ還與スルヲ拒ムキハ監守自盜ト同視ス
ヘキナリ

第二百二十七條 凡監守自盜并ニ監守自盜ノ
既行未成ハ一ヶ月ヨリ少カラサル禁獄ニ有
期ノ民權剥奪ヲ加ヘ以テ處ス

若シ輕減スヘキ景況ノ判然タルトテ確認ス
ルキハ禁獄ノ時限ヲ一日迄ニ減スルトテ得
ベシ

着眼(甲)「リベツク」刑法書第百九十一條ニ於テ
ハ此條ニ代フルニ左ノ法ヲ以テセリ

監守自盜ハ其自盜物ノ代價ニ準シテ竊盜
ノ同類ト做シ其罪ヲ處決ス可シ

着眼(乙)曩時王國「バン」ノ「フェル」ニ於テ千八百
四十年八月八月ノ刑法書中確定セル所左
ノ如シ

第三百四條 凡他人ノ動産ヲ所有シ或ハ保
有シ而シテ不法ノ故意ヲ以テ之ヲ已レカ固
有物ト為ス者ハ監守自盜ノ罪犯ナリ

凡第二百八十條ノ制定(共有遺物主ニ又ハ共
ル物品共同ノ竊盜)ハ此ノ監守自盜ニ就テ亦
之ヲ用フ可シ

凡竊盜ノ所為ハ所有主其所有物ヲ已レカ
固有ト為スノ目的ヲ以テ請求スヘキ推理
アル人ニ對シ之ヲ還與スルトテ肯ニセス
或ハ其所有物ノ全部若クハ一部ヲ賣却シ
又ハ他人ニ授與シ若クハ費耗シ或ハ其他
所有物ニ就テ特リ原有主ノミニ推理アル
所行ヲ已レノ隨意ヲ以テ所置セシキ正シ
ク之ヲ成就セシト見做ス可シ

第三百五條 凡動産ヲ拾テ取リシ者道理上
ニ於テ其原有主ノ之ヲ棄却セシトテ認定

スベカラサルモノニ之ヲ妄ニ已レノ固
有物ト為スキハ其罪犯ヲ拾取動産ノ監守
自盗ナリトス

第三百六條 千八百五十七年四月二十日ノ
刑法書中第十條

凡監守自盗ハ通常窃盗ト同一ノ刑ニ処セ
ラル可シ但シ拾取動産ノ刑ハ通常窃盗刑
ノ二分一ニマテ輕減シ以テ處決セラレ可
シ

○サツキセン 千八百六十八年
十月改正ノ刑法

第二百八十七條 凡已レノ所有ニ属セシ他人
ノ動産ヲ自己或ハ他人ノ固有物トセンカ為

メニ其原有主或ハ其他ノ有權者ヨリ之ヲ妄
ニ略取スル者ハ監守自盗ノ罪犯ナリ或ハ若
シ其動産通用ノ金貨又ハ其他同種類ノモノ
ヲ以テ償ヒ得ヘキ物体(例ハ此類ノ書籍及
他類ノ書籍)
及得ヘキ等ヲ以テ償ニテアリシ片定約ノ期限
ニ當リ有權者ノ請求ニ應レ輒チ延期ナク償
ヒ得ヘキヲ確認スルヲナシニ之ヲ費耗セ
シ者或ハ若シ定約ノ期限ナキ時ニ於テ有權
者ノ請求スルニ當リ輒チ延期ナク償ヒ得ヘ
キヲ確認スルヲナシニ之ヲ費耗セシ者ハ
監守自盗ノ罪犯ナリトス

若シ主管已レノ所有ニ属セサル主人ノ請求
物(例ハ反物小間物酒肴等)或ハ其財產物(店

唐ア物ル等反物ノ如酒看者小間物ノ一ニ就テ已レカ貪利ノ目的ニ因リ其主人ノ損害ト為ルヘキ方法ヲ以テ之ヲ利スルキハ監守自盜ト同視スヘキナリ

第二百八十八條 凡他人ノ動産ヲ法ニ違ヒ典當ト為シタルモノハ監守自盜ト見做スヘシ而ノ此典物ヲ仮令ヒ受ケ出シ而ノ權有者ニ還與スルノ目的ヲ以テ之ヲ為シタルモ此重罪犯ハ其典物ノ最モ充分ナル代價ニ準シ其罪ヲ決定セラル可シ此場合ニ於テ其動産ヲ權有者ノ請求ニ應シ輒チ償却スヘキノ定期迄ニ之ヲ受ケ戻シ得ヘキヲ確認スルヲ十クシテ之ヲ典當ト為シタル者ハ無論四ヶ月ヨリ多カラサル禁獄或ハ二年ヨリ多カラサル

徒場驅役ノ刑ニ處セラル可シ之ニ反シ若シ典當ト為シタルモノヲ受ケ戻シ而ノ還與スヘキ目的ニ加フルニ其確證ヲ判然表出シタルキハ第三百三十條ノ第三第四及ヒ第五款ニ準シテ處決セラル可シ
第二百八十九條 凡官吏ノ監守自盜ニ對シテハ非常ノ竊盜犯ヲ以テ處刑シ又契約上ニテ委任セラレタル動産ノ監守自盜ニ對シテハ通常ノ竊盜犯ヲ以テ處刑ス可シ
此他監守自盜ノ罪犯ハ通常竊盜刑ノ二分一ヲ以テ科ス但シ出訴ヲ待テ乃チ之ヲ論決スヘキナリ

第二百九十條 許多ノ原有主ニ屬セシ物産ノ
監守自盜

第二百九十一條 凡紛失セシ動産(但シ海濱河
岸ニ漂着スル所ノ物産及ヒ貨物亦這裡ニ包
含ス)ヲ發見シ而ノ監守自盜ヲ為ス者ハ出訴
ヲ待テ通常竊盜ニ科スヘキ刑ノ二分一ヲ以
テ其罪ヲ處決ス可シ(第二百九十六條)
若シ物産ノ本價一「タ」以上ニ至ラサル
モノハ刑ニ處セラレ、「ナ」以上ニ至ラサル
ル者止テ其拾ヒ得タル物ノ腐敗スヘキ故ア
ルヲ以テ之ヲ費耗セシキハ刑ニ處セラレ、
「ナ」又動産ヲ已レノ所有中ニ置キレニ當
リ穿鑿搜求ヲ被リ之ヲ偽リ隠シタルニ非リ
シキハ固ヨリ刑ニ處セラレ、「ナ」

〇ヘツセン千八百四十年九月

第三百七十九條 凡已レノ監守シ若クハ支配

スヘキ為メニ委託サレタル他人ノ動産或ハ
其他還與スヘク又ハ交與スヘキ(職業ヲ為リス

タル動産又ハ運搬ス)原由アル義務ヲ以テ委
托サレタル他人ノ動産ヲ盜ムニ原有主若ク

ハ他ノ有權者ニ對シ之ヲ略取スルノ目的ニ
於テ為ス者ハ監守自盜ノ罪犯ナリトス

第三百八十條 凡監守自盜ノ全ク成就セシト
為スモノハ所有者ノ左ノ所有ニ涉リシキニ

在リ

第一款 請求スヘキ權理アル人ニ對シ其所
有及ヒ保有ヲ拒ミシ片

第二款 財産ノ全部又ハ其一部ヲ費耗シ或
ハ賣却シ或ハ他人ニ授與シ或ハ持リ原有
者ノミニ存スル權理ノ所行ヲ其財産ニ就
テ實施シタル片

但シ第二款中ニ論シタル場合ニ於テ所有主
權有主ヨリノ請求ニ當リ直ニ全ク弁償シテ
之ヲ満足セシムル片ハ一モ刑ニ處セラル、
一ナシ或ハ又代償スヘキ物産ノ監守自盜ニ
屬スル片ハ一モ刑ニ處セラレザル者トス

第三百八十一條 凡道理上ニ於テ原有主ノ棄
却セシ動産ナリト認ム可ラサルモノヲ發見

シ即チ偶然ニ之ヲ已レノ所有ト為セシ者或
ハ自ラ唱へ出テタル原有主即チ紛失セシ人
ニ對シ其動産ヲ發見シ即チ所有ト為セシ
ヲ隱蔽シ又還與スルヲ肯ンセサル片ハ監
守自盜ノ罪犯ナリトス若シ或ハ發見セシ者
者已ニ他法ニテ原有主即チ紛失セシ人覺知
セシ後或ハ新聞紙上ニテ發見セシ者即チ所
有者ニ對シ公然請求セシトテ諒知セシ後法
ニ背キシ目的ニ依リ右等ノ所業ヲ為セシ
ヲ破毀スヘキ理由ヲ証據立テ得ヘキトナ
シニ其償却ヲ拒ミ又ハ其事ヲ官署ニ啓告セ
サル片ハ總テ監守自盜ノ罪犯ナリトス
殊ニ充分ナル辨由ト為スヘキモノハ官署ヨ

リ着手セサル前ニ紛失物ヲ發見セシ即チ所
有ニ為セシトニ就テ之ヲ官署ニ啓告レタル
片ニ在リトス

○ラルデンプールグ

千八百五十八年七月三日ノ

刑法

第二百八條

第一項 凡他人ノ動産ヲ所有シ或ハ保有シ
而メ法ニ背キ之ヲ已レノ固有ト為ス者ハ
監守自盜ノ罪犯ナリ

第二項 凡所有者有權者ニ對シ動産ヲ還與
スルヲ肯ンセス或ハ其全部又ハ其一部
ヲ賣却シ若クハ他人ニ授與シ若クハ費耗
シ或ハ其他特リ原有主ノミニ存スル權理
ノ所行ヲ其動産ニ依テ漫ニ執行スル片ハ
即チ正シク監守自盜ノ罪犯ヲ成就セシト
見做スヘキナリ

第二百九條

凡印封ナキ即チ露金ヲ受ケ取り

之ヲ費耗シタル者若シ之ヲ償フヘキ目的ヲ
以テ費耗シ且具景況ニ於テ延滞ナク償却シ
得ヘキノ証據アルトヲ確認セラル、片ハ監
守自盜ノ罪犯ヲ免カル可シ然レ氏殊ニ同種
ノ金貨ヲ以テ取次ヲ為ストヲ約束セシ片若
シ約定期限ヲ遲慢スルニ非レハ償却スルノ
目的ヲ以テセシヤ否ヤニ注意スルヲ要セ
ス

第二百一十一條 凡監守自盜并ニ監守自盜ノ既
行未成ハ一個月ヨリ少カラサル禁獄且ツ有
期民權剥奪ヲ以テ處決セラル可シ
凡輕減スヘキ景況判然タルヲ確認セラル
ルキハ禁獄一日迄ニ減セラルヲ得ヘシ

○グラールウンシエウツイク

七月十日
刑法

四十八年

第二百二十條 凡已レノ所有若クハ保有中ニ
在ル他人ノ動産ニ對シ情ヲ知テ法ニ背キ貪
利ノ為メ之ヲ已レノ固有ト為ス者殊ニ其動
産ヲ賣却シ或ハ全部若クハ一部ヲ費耗シ或
ハ之ヲ固有ト為サンガ為トニ典當トナシ或
ハ請求スヘキ權理アル人ニ之ヲ還與スルヲ
肯ニセス或ハ之ヲ隱蔽スル者ハ左ノ刑ニ
處セラル可シ

第一款 若シ監守自盜ノ贓五百「タ」以上
上ノ代價ナルキハ徒刑ニ處セラル可シ

第二百二十一條

第二款

(甲) 監守自盜ノ贓十五「タ」以上ノ代價
ナルキ(丁)ノ場合
(乙) 監守自盜ノ贓三十「タ」以上ノ代價
ナルキハ

一年以上ナル徒場驅役ノ刑ニ處セラルヘ
シ

第二百二十二條

第三款 一年以下ナル徒場驅役ノ刑ニ處セラル可シ(乙ノ場合)

凡監守自盜ノ第二百二十條ヨリ第二百二十二條ニ至リ論シタル景况ノ一モ顯ハレタルニ非レハ警察禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

○「サソキセニアルテングールク」 千八百九十一年五月三日ノ刑法

第二百四十二條

凡他人ノ動産ヲ已レノ所有又ハ保有ト為シ或ハ之ヲ差配シ而ノ何レノ方法ヲ論セス一ノ事業ヲ起スニ因テ不法ニ其動産ヲ自己ノ固有ト為セシメノ自然發覺

シ或ハ擔任セシ特別ノ義務上ヨリ其事ノ發覺シタル者ハ動産代價ノ總計ニ準シ平常竊盜ノ罪科ニ處セラル可シ

○「ハムブルグ」 千八百九十一年三月十日ノ刑法

第八十七條

凡他人ノ動産ヲ監守シ又ハ支配スヘキヲ委任セラレ或ハ其他之ヲ還與シ又ハ取次ヘキノ契約ニ原キタル義務ヲ以テ委任セラレ而ノ違法ノ目的ニ於テ之ヲ已レノ固有ト為ス者即チ其動産ノ全部若クハ一部ヲ費耗シ或ハ賣却シ或ハ典當ト為シ或ハ他方ニ移シ或ハ請求スヘキ権理アル人ニ之ヲ還與スルヲ肯シヤス或ハ之ヲ隱蔽ス

ル者

第一 若シ監守自盜ノ贓二百「タ」レル以上ノ代價ナルキ

第二 若シ監守自盜ノ贓二十「タ」レル以上ノ代價ナルキ及ヒ其他ノ場合(第五款ノ場合ニ準ス)ナルキハ五年ヨリ多カラサル羈絆ノ刑ニ處セラル可シ

上項ノ外他ノ監守自盜并ニ拾取動産ヲ法ニ背キ已レノ固有ト為スノ犯者ハ一年ヨリ多カラサル禁獄ニ處セラレ或ハ四百「タ」レルヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ
凡刑ヲ擬決スルニ當リテハ被害者萌生セシ損害上ニ殊ニ注意ヲ要セサル可ラス而シテ若シ監守自盜ノ犯人其損害ヲ辨償シタルキハ之ヲ酌量輕減スヘキ原因ト做ス可シ
凡他人ノ金子及ヒ其他代償スヘキ動産ヲ費耗セシニ當リ若シ法ニ背キレ意趣アルニ非スシテ定約時限ニ至リ輒チ權有者ノ請求ニ應ジ直ニ準備ヲ為シ之ヲ償却シ得ヘキノ確証ヲ表出シタルキ或ハ若シ定限ヲ約セサルキ此ノ如キ所行ヲ為シタルキハ監守自盜ノ定解及ヒ其刑中ニ陷ルヲナシトス

○バエールン 千八百六十年十一月十日ノ刑法

第二百九十三條 凡委托サレタル他人ノ動産或ハ商賣ニ就テ任セラレタル他人ノ動産ニ

對シ自己若クハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ計リ因テ已レノ權限ニ悖リ其全部又ハ一部ヲ賣却シ或ハ典當ト為シ或ハ費耗シ或ハ典當ト為シ或ハ費耗シ或ハ其他ノ方法ヲ以テ已レノ固有ト為ス者ハ監守自盜ノ罪犯ナリトス

凡監守自盜ノ罪犯ハ其既行未成モ亦重罪或ハ違令罪ニ依テ處決セラレ可キ者トス

○「ウールテムベルグ」

千八百三十一年三月一日ノ

刑法

第三百四十四條 凡已レノ所有中ニ在ル他人ノ動産ノ法ニ背キ已レノ固有ト為ス者或ハ

之ヲ賣却シ或ハ其全部若クハ一部ヲ費耗シ又已レノ固有ト為スノ目的ニ於テ之ヲ典當ト為シ或ハ其請求スヘキ權理アル人ニ對シ之ヲ還與スルヲ肯セス或ハ之ヲ隱蔽スル者ハ監守自盜ノ罪犯ナリトス

千八百四十九年八月十三日ノ律書中第二十九條

凡監守自盜(刑法書第三條)ハ被害者若クハ代理スヘキ代言者ノ呈訴ヲ待テ乃チ其罪ヲ糾問シ且ツ刑ニ處ス可シ其他ハ之ヲ除ク若シ本主ヨリ官署ヘ呈訴セサル中ニ辨償シタル片ハ其罪ヲ處決セス

同上律中ノ第三十條

九代償スヘキ他人ノ動産ヲ償却スルノ目的
ヲ以テ法ニ背キ之ヲ費耗シ而シテ其費耗セシ
時ニ當テハ着目セシ償却ヲ遂クヘキ方便アリ
リシトノ確証ヲ立テ得ヘキ者ハ損耗ヲ受ケ
シ人ノ呈訴ヲ待テ之ヲ禁獄ノ刑ニ處ス

○バーテン

千八百五十五年三月五日

刑法ノ

第四百條 九他人ノ動産ヲ監守シ若クハ支配
スヘキトヲ委任セラレ或ハ之ヲ還與スヘク
取次ヘキノ約束ニ原キタル義務ヲ以テ委任
セラレ而シテ其之ヲ請求スヘキ権理アル人ニ
對シ償却スルノ目的ナシニ之ヲ略取シ已レ

ノ固有ト為ス者ハ監守自盜ノ罪犯ナリ

第四百一條 九請求スヘキ権理アル人ニ對シ
故意ヲ以テ偽リ義務ヲ盡サス即チ還與スヘ
キト或ハ取次ヘキノ約束ヲ為セシ動産ヲ請
取リシトヲ拒ミ肯セサル者ニ就テ單ニ其
景況ヨリ見レハ他ニ酌量スヘキ情状ノ毫モ
現ハレサルニ於テハ勿論故意ニテ之ヲ已レ
ノ固有ト為スト即チ監守自盜ト同視ス可キ
ナリ

第四百二條 若シ動産ヲ收受セシ者之ヲ辨償
スルノ方法ヲ知ラス即チ辨償ヲ為スヘキ期
限ニ之ヲ償却シ得ベキノ確証ヲ預定スルト
ナクシテ之ヲ費耗シ或ハ賣却シ而シテ本主ヨ

リ請求ヲ受ケタル片之ヲ還與辨償シ或ハ他ノ方法上ニ於テ其本主ヲ充分ニ満足セシムヘキヲ為シ得サル片ハ該者ニ對シ前條ト同般ノ思量ヲ置ク可キ者ナリトス

第四百三條 凡監守自盜ハ賊計大小ノ差異ニ準シテ左ノ如ク處刑セラル可シ

第一款 二十五「ギユル」以下ノ監守自盜ハ四個月ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第二款 二十五「ギユル」以上三百「ギユル」以下ノ監守自盜ハ四週間ヨリ少カラサル禁獄ノ刑ニ處セラレ或ハ二年ヨリ多カラサル徒場驅役ノ刑ニ處セラル可シ

第三款 三百「ギユル」以上ノ監守自盜ハ四年ヨリ多カラサル徒場驅役ノ刑ニ處セラレ具最重ナル場合ニ於テハ一年以外五年以内ノ徒刑ニ處セラル可シ

○「アレ」メシ
ノ十
草
案
百
六
十
八
年

第三百九十條 凡委託サレタル他人ノ動産ヲ自己或ハ他人ノ為メニ不正ナル利益ヲ營ムノ目的ニ依リ其全部若クハ一部ヲ賣却シ或ハ典當ト為シ或ハ費耗シ或ハ其ノ他ノ方法上ニ於テ已レノ固有ト為ス者ハ十四日間以上三年以下ノ禁獄ヲ以テ處セラル可シ其ノ較輕キ者ニ在テハ十四日間以下ノ禁獄ヲ以

テ處セラレ或ハ一百「タ」レ「ル」ヨリ多カラサ
罰金ヲ科セラル可シ

第三百九十一條 凡監守自盜ノ賊計五十「タ」
レ「ル」以上ニ至リ五百「タ」レ「ル」以上ニ至ラサ
ルキハ三個月ヨリ少カラサル禁獄ノ刑ニ處
セラレ其較輕キ場合ニ於テハ四週間ヨリ少
カラサル禁獄ニ處セラル可シ
凡賊計五百「タ」レ「ル」以上ニ至ルキハ十年ヨ
リ多カラサル徒刑ニ處セラレ其ノ較輕キ場
合ニ於テハ六ヶ月ヨリ少カラサル禁獄ノ刑
ニ處セラル可シ

第三百九十二條 凡發見シ或ハ偶然或ハ不
明ナル「ト」ニ依テ已レノ所有ニ得タル他人ノ

動産其他確乎ト委任ヲ受ケサル「ト」ニ依テ(但
シ必ラス法ニ背キタル方法上ニ依ルニ非ス)
已レノ所有ニ得タル他人ノ動産ヲ自己又ハ
他人ノ為メニ不正ナル利益ヲ營ムヘキ目的
ニ於テ其全部若クハ一部ヲ費却シ或ハ典當
ト為シ或ハ費耗シ或ハ其他ノ方法上ニ於テ
已レノ固有ト為ス者ハ前第三百九十條及ヒ
三百九十一條ノ制定ニ照準シ該條中ノ最輕
罪科ヲ輕減シテ其二分ノ一ヲ處決セラル可
シ

○「ヲ」ースタリヤ
千八百六十七年ノ草案

第二百七十一條 凡已レニ委託セラレ或ハ商

業ノ為メニ已レノ所有ト為シタル他人ノ動
産或ハ偶然ニ因リ或ハ詐偽取財ヲ除キ他ノ
不分明ナル場合ニ於テ已レノ所有ト為シタ
ル他人ノ動産或ハ發見シタル他人ノ動産ヲ
自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營ム
ヘキ目的ヲ以テ權限ニ反キ之ヲ賣却シ或ハ
費耗シ或ハ典當ト為シ或ハ其他ノ方法上ニ
テ之ヲ已レノ固有ト為ス者ハ監守自盜ノ罪
犯ナリ
凡拾得タル貨物ヲ已レノ固有ト為シ因テ
他人ヨリ相應ノ分與ヲ取ラント為ス者ハ前
條ト同一ニ見做ス可キナリ

千九百零六年八月六日草案十

第百七十五條 凡他人ヨリ委託セラレタル動
産ノ全部若クハ一部ヲ賣却シ或ハ典當ト為
シ或ハ費耗シ或ハ其他ノ方法上ニテ自己又
ハ他人ノ為メニ不正ナル利益ヲ營ムヘキ目
的ニ於テ之ヲ已レノ固有ニ屬セシ者ハ監守
自盜ノ罪犯ナリトス

第百七十七條 凡第百七十六條ノ制定ニ照準
ス可ラサル監守自盜若シ其自盜セシ物價ノ
總計五百「フラン」以上ナルハ三年ヨリ多
カラサル徒刑或ハ徒場驅役ノ刑ニ處セラル
可シ若シ物價ノ總計五百「フラン」又ハ其以
下ナルハ三年ヨリ多カラサル徒刑若クハ

禁獄ノ刑ニ處セラル可シ其至輕ナル場合ニ於テハ五十「フランク」以内ナル罰金ノミヲ科セラル可シ

千八百十年二月
刑法

第四百八條 自己ニ於テ借受受寄及ヒ典當ノ受寄又ハ借用或ハ雇直シ得タル操作及ヒ雇直ヲ得ザル操作等ノ為メ又ハ還與ヲ為スノ約束及ヒ同償物ヲ還與スヘキノ約束或ハ預定ノ用法ヲ為スヘキ為メ等ニツキ交付ヲ得タル証票、金、銀、商品、証券、還與ノ証書又ハ其他借受及ヒ算還等ノ証書類等ヲ其所有者ノ害トナル可キ方法ヲ以テ窃取シ及ヒ費耗セシ

第六十三 詐欺財ヲ奪フノ罪

佛蘭西

第四百五條 千八百六十三年五月
偽リノ姓名ヲ用ヒ或ハ偽リノ身分ヲ称シ或ハ偽リノ起詐無實ノ威權、偽リノ信據ヲ人ニ証シ示ス可キ為ノ詐計ヲ用ヒ又ハ人ヲシテ無實ノ成功及ヒ無根ノ事故ヲ希望セシメ或ハ畏怖セシム可キ為メ偽計ヲ用ヒテ人ノ所有スル金銀、動産、義務ノ証書、契約書、手形、約定書、算還ノ證書ヲ已レニ渡サシメ或ハ渡サシメント試ミ為シ且其偽計ヲ以テ人ノ産業ノ全部又ハ一部ヲ奪ヒ或ハ奪ハント試ミ為シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁

銅ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケン日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケレムルヲ得可シ但シ此規則ト其犯人ニ贋造偽造ノ重罪アル時更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、了ナカル可シ

○獨逸

第二百六十三條 自ラ不正ノ利ヲ得ントシ或ハ他人ニ得セシメントスルノ目的ニテ不實

ナル事ヲ契言シ又ハ實ナル事ヲ變シ或ハ之レヲ隱匿シテ疑惑錯誤ニ乘シ教唆鼓動シ又ハ之レヲ繼續シテ以テ他人ノ財産ニ害ヲナシタル者ハ詐偽ノ罪トナシ禁獄ニ處シ其余千タールレヨリ多カラサル罰金ニ處シ尚ホ公權ヲ行フヲ禁ス可シ
若シ酌量輕減アルキハ其刑ヲ罰金ニ折算スルヲ得可シ之レヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ

若シ親族後見人教師又ハ奴僕雇直ヲ與ヘ使役スル人及ヒ寄食生徒ニ對シ詐欺ノ罪ヲ犯シタルキハ其訴ヲ待ツテ其罪ヲ論スヘシ

第二百六十四條 獨逸裁判所ニ於テ詐欺犯罪

ニヨリ處決セラレタル後再々其同種ノ輕罪
ニ因リテ處決セラレタルモノ更ニ詐欺取財
ノ罪ヲ犯シタルキハ十年ヨリ長カラサル徒
刑ニ處シ尚五十ターレヨリ二千ターレ
ニ至ル罰金ニ處スヘシ
若シ酌量輕減アルキハ三月ヨリ短カラサル
禁獄ニ處シ其余千ターレヨリ多カラサル
罰金ニ處ス可シ
二百四十五條ニ記シタル條々モ亦同シク通
シテ用ユヘシ

第二百六十五條 詐欺取財ノ罪ヲ犯ントスル
目的ニテ火災保險ヲ為シタル物件ニ放火シ
又ハ其同等ナル目的ニテ船又ハ其積荷及ヒ
其運賃ニ付請合ヲ為シタル船舶ヲ故ラニ淺
瀬ニ傾膠シ又之レヲ沈没セシメタルモノハ
十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ仍ホ五十タ
ーレヨリ二千ターレニ至ル罰金ニ處ス
可シ

若シ酌量輕減アルキハ六月ヨリ短カラサル
禁獄ニ處シ仍ホ千ターレニ至ル罰金ニ處
スヘシ

第二百八十八條 裁判所ヨリ施行スヘク嚴命
アリト脅迫シ姦計ヲ以テ故ラニ其債主ヲ害
セントスルノ意ニテ其財産ノ全部又ハ其一
部ヲ讓渡シシメ又之レヲ騙取シタル者ハ二
年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

債主ノ訴ヘテ待ツテ其罪ヲ論ス可シ

○白耳義

第四百九十六條 凡無實ノ事ヲ告ケ詐謀ヲ巧
ニシ人ヲ信セシメ因テ錢貨財物借用券請
取券拂方証左等ヲ欺キ取ル者ハ一月ヨリ五
年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ三千
「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ且ツ第三十
三條ノ奪權ニ處スル「アリ

第五百八條 凡左ニ載ル犯人ハ八日ヨリ二年
マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ五百「フ
ランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ
他人ノ動産ヲ偶然認メ漫ニ已レノ有ト為シ

詐欺ヲ用テ之ヲ別人ニ與ヘ若クハ藏匿スル
者偶然ノ所ニ財物ヲ發見シ得テ其一部ヲ法
ニ依リ本主ニ與ヘズ私利スル者

第五百九條 凡空名ヲ虚設シ或ハ負債者ナラ
ザル人或ハ拂ヒ能ハサル人或ハ拂フヲ許諾
セザル人ヲ名宛トシ為替切手ヲ造リ錢貨財
物ヲ得ル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ
二十六「フランク」ヨリ三千「フランク」マテノ罰
金ヲ命ス可シ

然レ氏其先方ニ於テ此金高ヲ拂フ乎又ハ為
替タル者此金高ヲ拂フハ其先方ヨリ訴ヘ出
ルニ非レハ之ヲ裁判スルヲ得ス又已ニ裁判
ニ附スル片モ之ヲ停ムルヲ要ス可シ

若シ其先方ヨリ訴フルキハ右犯人ヲ十五日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六アラシクヨリ三百アラシクマテノ罰金ヲ命ス可ク或ハ此一刑ニ處ス可シ

○埃及

第三百二條 何人ニ限ラス詐計ヲ用ヒ又ハ人ヲシテ偽リノ起作或ハ偽リノ事柄アルヲ信セシム可キ所為ヲ行ヒ又ハ無根ノ利益ヲ望マシメ或ハ嘗テ一旦欺キ取リシ金高ノ償還ヲ望ムシム可キ所為ヲ行ヒ又ハ偽リノ義務アリ或ハ偽リノ義務ノ解除アリシヲ信セシム可キ所為ヲ行ヒ又ハ偽リノ姓名或ハ偽リノ身分ヲ稱シテ金高動産義務ノ証書義務ノ解除ノ証書及ヒ其他ノ財産ヲ已レニ渡サシメ他人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ欺キ取リタル者ハ三月ヨリ少ナカラズ三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ百ピアストルヨリ少ナカラズ五千ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

○英吉利

凡詐欺シテ人ノ財物ヲ取ル者ハ輕罪ニ坐シ五年ノ徒罪或ハ二年ニ過サル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ若シ人ヲ詐欺誘誑シテ金銀ノ証書ヲ作為收

受押印或ハ破壊セシメ若クハ他人ノ姓名ヲ
書寫セシムル者ハ並ニ罪亦同シ 詐欺取財
凡人ノ財實品物証書等ノ寄託ヲ受ケ因テ自ラ
詐取シ或ハ自己ノ用ト為シ若クハ他人ノ用
ト為ス者ハ縦ヒ之ヲ減破セスト雖モ^{窃盜ノ}
罪ニ坐ス 詐取寄託財物

凡海陸軍ノ士卒若クハ英國ノ銀行ニ金ヲ寄託
スル人或ハ高社等ヲ冒名シテ俸金若クハ利
益分配等ヲ詐欺シ取ル者ハ重罪ニ坐シ二年
ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加ヘ或ハ五
年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處ス 冒名取財

凡家産器物等ヲ賣却若クハ典當シテ其故券遺
書証書等ヲ消抹破壊シテ他人或ハ其子孫ヲ
詐欺セントスル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪或ハ二
年ニ過ヤル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加ヘ或
ハ贖罪入獄ヲ併用ス 消破券書詐欺人

○プロイセン 千八百五十二年四月
刑法

第二百四十一條 凡貪欲ナル目的ニ於テ無根
ノ事實ヲ發言シ或ハ有根ノ事實ヲ包秘シ又
ハ抑塞スルヲ依テ他人ノ疑惑ヲ醸成シ以
テ其財産ヲ損害スル者ハ騙欺ノ罪犯ナリト
ス

第二百四十二條 凡騙欺并ニ騙欺ノ既行未成
或ハ一年以上ノ禁獄ヲ以テ處シ且ツ同時ニ
五十「フラン」ヨリ少カラス一千「フラン」ヨ

リ多カラサ罰金ヲ以テ科シ并ニ有期ノ民權
剥奪ヲ加ヘラル可シ

若シ酌量輕減ス可キ情状ノ判然現ハレシ
ヲ確認スルキハ其刑ヲ殺ヒテ一週間ノ禁獄
ニ至ラシム可シ或ハ止夕五「ターレル」ヨリ少
カラサル罰金ノミ減殺スル「アリ

○「サツキセン」 一千八百六十八年十月
一日改正ノ刑法

第二百八十四條 (騙欺取財)

凡無底ノ事務ヲ偽ルニ依リ或ハ有根ノ事實
ヲ秘スルニ依リ或ハ確定セシ事項ヲ以テ觀
レハ自然正實ナリト為シ得可キノ趣巧ニ依
リシモノナルヲ論セス詐欺ヲ以テ某人ノ損

害ト為ルヘキ方ヲ施用シ自己又ハ他人ノ為
メニ不法ノ利益ヲ營ム者ハ騙欺ノ罪犯ナリ
トス

第二百八十五條 (騙欺取財ノ罪)

凡特別ニ掲載シタル場合即チ偽造證書ヲ用
フルニ依テ行ヒシ騙欺ヲ除クノ外ハ通常竊
盜ノ罪犯ト同シカル可シ

○「ヘツセン」 一千八百四十二年九月
十日刑法

第三百九十一條 凡某人ノ權理ヲ妨害シ或ハ

自己又ハ他人ノ為メニ不正ナル利益ヲ營ム
ノ目的ニ依テ特別ノ義務ヲ損害シ情ヲ知テ
無底ノ事實ヲ確的ナリト云フ者或ハ有根ノ

事實ヲ秘包シ若クハ抑塞スル者或又特別ノ義務ヲ損害スルヲナシニ詐欺ノ方法ヲ以テ所行ヲ企ツル者或ハ某人ノ自己ニ萌醸セシ疑惑ヲ他ヨリ或ル所為ヲ施シテ養成シ因テ某人ニ損害ヲ加ヘシ者ハ騙欺取財ノ罪犯ナリトス

第三百九十三條 若シ某人ノ財産ヲ騙欺シテ其代價拾五「ギユルテン」以上ノ總計ニ至ラス而シテ其所為タル第三百九十五條及ニ第三百九十七條中ニ掲ケタル如キ情状ノ毫モ之レ無キハ小騙欺取財トシテ禁獄ノ刑ニ處セラシル可シ

第三百九十四條 凡前條ノ如キ小騙欺凡見做

ス可ラス亦第三百九十七條中ニ記載セシ情状ノ一箇ニ依ルモ之ヲ辨知ス可ラサル騙欺ハ單純騙欺取財ト為シ三年ヨリ多カラザル懲治監或ハ五年ヨリ多カラサル徒刑ヲ以テ處決セララル可シ

然レモ若シ初犯ノ騙欺取財ニシテ其物品ノ代價五「ギユルテン」以上ノ總計ニ至ラザリシハ禁獄ノ刑ニ處セララル可シ

○「千ユーリンキシユスターテン」
百千四八

十九年
ノ刑法

第二百三十六條 凡某人ニ對シテ財産ノ損害ヲ加ヘンガ為メニ不法ヲ以テ某人ノ疑惑ヲ萌

釀シ或ハ其疑惑ヲ幸ト為シテ其財産ヲ損害
スルノ目的ヲ達シ得ル者ハ騙欺ト為サレ此
罪犯ヨリ生セン損害ノ大小（騙欺ニ依テ得ル利益ノ多寡ヲ）
ニ準シ通常窃盜ノ罪ヲ以テ処決セララルヘ
シ

爾リシ時ニ犯者自己又ハ他人ノ為メニ利益
ヲ營マンコトヲ企望セン乎或ハ企望セサリシ
乎ヲ論セス此罪犯ニ在テハ渾テ之ヲ同一ニ
見做ス可レ然レ元其企望セサリシ者ニ就テ
ハ禁獄ノ代リニ相當ノ罰金ヲ科シ得可シト
ス

第二百三十八條 若シ某人自己ノ不注意又ハ
卓見ナキヨリシテ疑惑ヲ抱クニ方リ其疑惑

ヲ幸トシテ之ヲ乘レ而ノ他ノ施為モナク自
然ニ之ヲ己レノ所用ト為セシ者ハ騙欺ノ罪
トシテ罰セララル可ラス

或ハ底タニ一般ノ喝采及ヒ一般ノ説話ニ依
テ某人ノ疑惑ヲ萌醸セシキハ前項ト同ク亦
騙欺ノ罪ヲ受クルコトナシ

凡契約ヲ結ブニ當ツテ一般騙欺ノ罪ヲ處決
セラル可キ者ハ設シ契約ヲ為セン一方ノ人
其疑團ヲ抱キン事由ノ確實ナルコトヲ了知セ
シナラハ其契約ヲ全ク為サ、リシ乎又ハ他
ニ結約スヘキ方法ノ有ルヘキモノナルニ其

景状ヨリシテ認め得ルニ足ル可キ事由上ニ
就テ其疑團ヲ萌醸セシ片ノミニ在リトス

結約ニ就テノ騙欺罪犯ハ其一方ヨリ呈訴ヲ
待テ糺彈シ且ツ其罪ヲ處決スヘキモノナリ
トス

○「アラウニシユウツイク」

千八百四
十年七月

刑法ノ

第二百二十四條 (騙欺取財)

凡某人ニ對シ財産ノ損害ヲ加ヘンカ為メニ
其人ノ疑惑ヲ萌醸シ或ハ其疑惑ヲ幸トシ要
スル者或ハ貪欲ナル目的ニ依テ其罪犯ノ本
意ヲ遂ケタル者ハ左ノ如ク處決セラル可シ
第一款 若シ醸成セシ損害即チ騙欺ニ依テ
得タル利益五百「タ」以上ニ至ルハ

徒刑ヲ以テ處ス

第二百二十五條 前ノ續キ

第二款 一年以上ノ徒刑ニ處ス可キモノハ

(甲) 醸成セシ損害即チ利益ノ代價十五「タ」
以上ニ至ルハ

(乙) ノ場合ニ從ヘハ

(乙) 詐欺ニ依テ得タル利益即チ其損害ノ總
計三千「タ」以上ニ至リタルハ

第二百二十六條 前ノ續キ

第三款 一年以下ノ徒刑ニ處ス可キモノハ

(甲) 詐欺ニ依テ得タル利益即チ損害ノ代價
二「タ」以上ニ至リタルハ
六種ノ場合ニ從ヘハ

(乙) 詐欺ニ依テ得タル金額五「ター」以上
ニ至リタルキ

騙欺取財ノ罪犯第二百二十四條乃至第二百
二十六條ニ掲ケシ情状ノ一箇ニ依テ重ク為
ス可キ者ニ非レハ之ヲ警察禁獄ノ刑ニ處ス
可レトス

第二百二十七條 契約上ニ就テ騙欺取財ノ條
例ヲ用フ可キ經界

凡契約上騙欺取財ノ罪犯ヲ以テ處決ス可キ
モノハ騙欺ヲ被リタル人ノ惱ミシ損害ヲ其
請求ニ應シ直ニ償ヒ得ルヲ能ハサルキニ在
リトス

○サツキセンアルテンブールク
百四十年五月
三日ノ刑法

第二百四十五條 凡無底ノ事實ヲ確實ナリト
發言スル者或ハ其實ヲ話スヘキ義務アル關
係中ニ於テ有根ノ事實ヲ包秘シ又ハ抑塞ス
ル者或ハ他人ノ右ニ同シキ所業ヲ為スヲ
了知シ之ヲ幸トシテ某人ニ損害ヲ加ヘタル
者或ハ自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益
ヲ營ミシ者若シ其物品有價ノモノナレハ通
常竊盜ノ刑ヲ以テ處決セラレ若シ其ノ有價
物ニ涉ラザルキハ三個月ヨリ多カラサル禁
獄或ハ六年ヨリ多カラサル工役ノ刑ヲ以テ
處決セララル可シ○毫モ貪欲ナル故意ヲ以テ

為サ、リシテノ判然タル場合ニ於テハ裁判官ニ許スニ禁獄ノ刑ニ換ヘテ相當ノ罰金ヲ科スヘキヲ以テス而メ又第二百三十七條乃至第二百三十八條中ニ論シタル關係(親屬間ノ竊盜及ヒ食物竊盜)ニ於ケル騙欺取財ノ所行ニ在テハ此兩條ニ記載セシ條例ヲ用フ可キモノトス

○「リベック」ニ千八百六十三年七月十日ノ刑法

第二百六條 凡無底ノ事實ヲ發言シ或ハ有根ノ事實ヲ包秘シ又ハ抑塞スルヲ依テ某人ノ疑惑ヲ萌醸シ以テ自己ノ利益ヲ營ミ或ハ貪欲ナル故意ヲ以テ某人ニ損害ヲ加フル者

ハ詐欺取財ノ罪犯ナリトス

第二百七條 凡詐欺取財ノ罪犯若シ第二百八條乃至第二百十條ノ目的點々外スルキハ左ノ如ク處決セララル可シ

第一款 若シ物品有價ノモノナレハ第二百七ノ十八條(例ヘハ通常竊盜ノ刑)ノ制定ニ照準シ處決セララル可シ

○「ハムブールグ」ニ千八百六十九年四月三十日ノ刑法

第百八十九條 凡自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營マンカ為メニ無底ノ事實ヲ偽造シ或ハ有根ノ事實ヲ抑塞シ或ハ偽計詐術ヲ施スヲ依テ一ノ疑惑ヲ醸萌シ或ハ之ヲ

養成シ而ノ某人ニ財産ノ損害ヲ加フル者ハ左ノ如ク處決セラル可シ

第一款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五十「タ」
一レル以上ニ至ルキハ五年ヨリ多カラサ
ル徒刑ニ處セラル可シ（七種ノ場合ニ從フ）

第百九十條

第二款 四週間ヨリ少カラス三年間ヨリ多

カラサル羈絆ノ刑（徒刑若クハ禁獄）

第三款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五十「タ」
一レル以上ニ至ルキハ一年ヨリ多カラサ
ル羈絆ノ刑ヲ以テ處決セラル可シ

第四款 此他諸ノ場合ニ於テハ六閱月以内

ノ禁獄若クハ二百「タ」一レルヨリ多カラサ
ル罰金ヲ以テ處刑セラル可シ

○「バエールン」 千八百六十年
九月十日ノ刑法

第三百十四條（騙欺取財ノ定解）

凡自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營
マントスル故意ヲ以テ無底ノ事實ヲ偽造シ
或ハ有根ノ事實ヲ抑塞シ或ハ偽計詐術ヲ施
ス「」ニ依テ一ノ疑惑ヲ萌醸シ或ハ之ヲ養成
シ而メ某人ノ財産ヲ損害スル者ハ騙欺取財
ノ罪犯ナリトス

凡騙欺取財ノ罪犯ニ在テ該輕罪或ハ違式ノ
既行未成モ亦其罪ヲ處決セラル可シ

第三百十四條（騙欺取財ノ刑）

凡第三百十六條第三百十九條及第三百二十條ノ制定ヲ除クノ外騙欺取財ノ罪犯ハ左ノ如ク處決セラル可シ

第一款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益ノ總計拾「ギユルゲン」以上ニ至ラス且其犯者未タ嘗テ騙欺取財或ハ偽造ノ罪犯ニ就テ處刑セラレシトアラサルニ於テハ禁錮ヲ以テ處決ス可シ而シテ此刑或ハ之ヲ重ク為シ得ヘク或ハ又百五十「ギユルゲン」ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス可シトス

第二款 其他ノ場合ニ於テハ一個月以内ノ禁獄ヲ以テ處決ス可シ而シテ此ノ禁獄ハ五百「ギユルゲン」ヨリ多カラサル罰金ヲ連帶シテ科シ得可キ所ノモノナリ若シ騙欺ニ依テ得タル利益千「ギユルゲン」以上ニ至ルニハ八年ヨリ多カラサル徒刑ヲ以テ處決ス可シトス

○「ウールテンベルグ」 千八百三十一年三月十九日

刑法

第三百五十一條 (甲定解)

凡某人ノ權理ヲ損害スルカ為メニ情ヲ知テ無底ノ事實ヲ確的ナリト發言シ或ハ有根ノ事實ヲ抑塞シ又ハ之ヲ秘包シ而シテ某人ニ損害ヲ加ヘ又ハ自己ノ為メニ利益ヲ營ハ者ハ騙欺取財ノ罪犯ナリトス

第三百五十二條 (乙) 該刑

凡某人ニ損害ヲ加ヘシ騙欺若シ實際及ニ此
刑法書中ニ於テ刑ニ處ス可キ重罪犯ニ涉リ
シニ非レハ此ニ由テ釀成セシ損害ノ大小ニ
準シ禁獄ノ刑ヲ以テ處決セラル可シ
但シ騙欺ニ依テ不法ナル營利ヲ起行シ而ノ
之ヲ成就シタルハ竊盜罪犯ニ就テノ制定
(第三百二十一條第三百二十二條)ヲ以テ擬決
ス可キモノトス

凡契約條件中ニ不法ノ詐欺アルカ為メニ民
法上ノ原理ニ準ニ其破約或ハ罰金ノ事故ヲ
訟エ得ヘキ場合ニ於テハ之ヲ措テ受理セザ
ルモノトス而シテ若シ契約ヲ為セシ一方ノ人
格外ナル詐術ヲ施シ他ノ一方ヲ結約スルニ
至ルマテ誑誘セシハ固ヨリ刑法ニ依準ス
可キナリ爾餘上ノ如キ場合ニ在テハ刑法ノ
敢テ關預スル所ニ非ス
契約條件中騙欺ノ罪ニ就テハ被害者ノ訴ヘ
出ルヲ待テ乃チ之ヲ處決スル而已

○「バーテン」 千八百四十五年三月六日
同日五月五日

刑法ノ

第四百五十條 (貪欲ヨリ出タル騙欺ノ罪状)

凡贗造罪犯(第三十篇)ヲ除クノ外貪欲ナル目
的ヨリ出テ偽計ヲ以テ有根ノ事實ヲ秘包シ
或ハ故意ヲ以テ有根ノ事實ヲ抑塞スルトニ

依テ特別ノ義務ヲ損害シ情ヲ知テ財産ヲ損
害スルノ所行若クハ事實ヲ廢止スルニ至ル
マテ他人ヲ誑誘スル者ハ騙欺取財ノ罪犯ニ
依テ論シ之ヲ監守自盜(第四百三條ノ罪ニ處
ス可シ

第四百五十一條 凡某人ノ自己ニ擡起セシ疑
惑ヲ已レ(犯騙欺ノ)ノ所作ニ依テ之ヲ欺待シ而
ノ貪欲ナル目的ヲ以テ某人ノ財産ヲ損害ス
ルヲ幸トシ要スル者ハ前第四百五十條ニ
於テ處決セシ刑ノ四分三ヲ科セラル可シ

第四百五十二條 (契約ニ就テノ騙欺取財)
凡契約ヲ結フニ當リ不正ノ利益ヲ營ムニ就
テ第四百五十條及ニ第四百五十一條ノ制定
ニ準シ騙欺取財ノ罪ニ處決セラル可キ者ハ
止タ左ノ所業ニ涉リシキニ在リ即チ

第一款 若シ契約ヲ為ス一方一人ノ契約(遺言云)ニ於テ他人ニ損害ヲ加ヘ其契約物ヲ騙
欺ニ依リ已レノ固有ト為サンカ為メ及ニ
二人ノ契約ニ於テ已レニ其報酬ヲ約スル
トナクシテ他ノ一方其契約ヲ實行スル中
ニ存有セル利益ヲ騙欺ニ依テ已レノ固有
ト為サンカ為メニ契約ヲ為スコトヲ以テ
騙欺ノ方便ト為シ而ノ實際上右ノ物利ヲ
已レノ固有ト為セシキ

第二款 若シ民法上ニ照シ契約取消ノ訴訟
或ハ償金ノ訴訟ヲ為ス可キトテ堅固ニス

ルノ方法ナル故意ノ詐欺ニ依リ且ツ其景況ヨリ之ヲ觀レハ該者同時ニ他ノ一方ニ属スル償金請求ノ權ヲ剥奪スルヲ搜索シ或ハ結約ノ他ノ一方ヨリ未タ償金請求ノ訴訟ヲ為サ、ル前ニ當リ已レノ貧窶ニノ償金ヲ出シ得サルヲ已ニ洞見セシトノ判然タル場合ニ於テ不正ノ利益ヲ營ミシ片

第四百五十八條 (貪欲ナル目的ナシニ騙欺取財ノ罪ヲ犯ス事)

凡貪欲ナル目的ナク倭惡心或ハ復讐ノ念ヨリシテ騙欺ニ依リ他人ノ財産ヲ損害スルノ罪犯若シ其所業外ニ一ノ確定セシ重罪犯所業ヲ為スニマテ至ラザリシ片ハ二年ヨリ多カラサル禁獄或ハ徒刑ニ處セラル可シ

○「シユウエーデン」 千八百六十四年二月十六日ノ刑法

第二十一章第一條 凡偽名ヲ用ヒ或ハ身位ヲ偽稱シ或ハ其他ノ偽計詐術ヲ用フルトニ依テ他人ノ財物又ハ金貨ヲ騙欺若クハ其財物金貨ノ消耗ヲ萌醸セシメタル者ハ罰金又ハ六個月ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處セラル可シ(但シ最後ニ掲ケタル場合ハ之ヲ除ク)若シ騙欺取財ノ罪犯極メテ重キ情状ノ現ハレタルキハ二年ヨリ多カラサル徒場驅役ノ刑ニ處決セラル可シ

○ブレームン 千八百六十八年ノ草案

第百三十二章第四百十九條 凡自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營マンカ為メニ無底ノ事實又ハ贋偽ノ事實ヲ以テ騙欺シ依テ某人ノ疑惑ヲ萌醸シ或ハ之ヲ養成スルヲ依テ某人ノ財産ヲ損害スル者ハ騙欺取財ノ罪犯ナリトス
凡騙欺取財ノ既行未成ハ亦其罪ヲ處決セラ
ル可シ

第四百二十條 凡騙欺取財ノ罪犯後條第四百二十二條及ヒ第四百二十三條中ニ掲ケタル目的ノ毫モ現ハレサル者ハ三年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處セラル可シ而シ其較輕キ場合ニ在テハ禁獄ノ代リニ一百「タール」ヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ

○「タール」スタリヤ 千八百六十七年ノ草案

第百七十四條 凡故意ヨリシテ虚説若クハ虚行ヲ以テ某人ヲ誑欺シ或ハ詐欺ノ方法上ニテ必ス疑惑ヲ萌醸スル所行ノ確乎タル原由ナルヲヲ熟知セシ他人ノ疑惑ヲ曲ケテ取用シ因テ他人ノ財産ニ損害ヲ加ヘシ者ハ騙欺取財ノ罪犯ナリトス

第百八十條 凡詐欺ノ方法上ニテ他人ニ對シ毫モ財産及ヒ人權ノ損害ヲ加ヘタルニハ

非レテ故意ヲ以テ其他ノ權利ニ損害ヲ加ヘ
或ハ此ノ如キ方法上ニテ自己又ハ他人ノ為
メニ不正ノ利益ヲ營ム者若シ其所行此刑法
書中ニ確定セシ他人罪犯ヲ為シタルニアラ
サルキハ騙欺取財ノ輕罪犯ト為シ一箇月以
上四箇月以下ノ禁錮ニ處刑セララル可シ

○「チユーリヒ」
六年八月十六日草案

第百八十三條 凡某人ノ財産或ハ其他ノ權利
ヲ損害スヘキ目的ニ於テ無底ノ事實ヲ發言
シ或ハ有根ノ事實ヲ秘包シ若クハ抑塞スル
トニ依テ某人ニ疑惑ヲ萌醸セシメ或ハ其疑
惑ヲ養成スル者ハ騙欺取財ノ罪犯ナリトス

第百八十四條 凡騙欺ノ罪犯全成シタリト見
做スモノハ騙欺ノ所行其目的ヲ遂ケ而シテ騙
欺セラレシ人ノ起行又ハ廢業ヨリシテ騙欺
ノ為メニ其意志ヲ確定セシトノ判然タルキ
ニ在リトス

第百八十七條 凡騙欺取財ノ罪犯ニシテ毫モ
第百八十六條中ニ掲載セシ如キ加等スヘキ
ノ罪因アラサル者ハ單純騙欺取財ト為シ左
ノ如ク處決セララル可シ

第一款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五百「ア
ラシク」以上ノ總計ナルキハ五年ヨリ多カ
ラサル徒刑或ハ工役ノ刑

第二款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五百「ア

ランク「若クハ五百」アランク「以下ノ總計ナ
ルハハ五年ヨリ多カラサル工役ノ刑或ハ
五千」アランク「ノ罰金ヲ連帶セシ禁獄ニ處
シ其較輕キ場合ニ於テハ單ニ罰金ノミヲ
以テ處ス可シトス

第六十四 遺失物ヲ私有スル罪

○白耳義

第五百八條 凡左ニ載ル犯人ハ八月ヨリ二年
マテノ獄ニ處シ二十六「アランク」ヨリ五百「ア
ランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ
他人ノ動産ヲ偶然認メ漫ニ己レノ有ト為シ
詐欺ヲ用テ之ヲ別人ニ與ヘ若クハ藏匿スル
者偶然ノ所ニ財物ヲ發見シ得テ其一部ヲ法
ニ依リ本主ニ與ヘス私利スル者

○獨逸

第二百九十一條 砲隊ニテ使用スル彈藥及ヒ
兵隊發放練中岳上ヨリ砲發シタル彈丸ヲ

不正ニ自己ノ所有トナシタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄又ハ三百タールレヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

○英吉利

凡官私ノ地内ニ於テ埋藏物ヲ掘得或ハ遺失物ヲ得テ因テ隱匿レ官私ニ送ラサル者ハ輕侮皇權律ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處断ス及得埋藏物

○プロイセン

千八百五十一年四月十四日ノ刑法

第二百二十六條 凡他人ノ動産ヲ發見シ即チ偶然ニ之ヲ已レノ所有ト為セシ人其原有主所有主假有主ノ損害ニ為ルヘキ方法ヲ以テ之ヲ典當ト為シ或ハ費耗シ或ハ他方ニ移置シ或ハ他人ニ屬スル所有物ニシテ偶然ニ得タルヲ熟知シナカラ偽テ之ヲ官署ニ持出シ還與スルヲ拒ムルハ監守自盜ト同視スヘキナリ

○サツキセン

千八百六十八年十月改正ノ刑法

第二百九十一條 凡紛失セシ動産(但シ海濱河岸ニ漂著スル所ノ物産及ヒ貨物亦這裡ニ包含ス)ヲ發見シ而メ監守自盜ヲ為ス者ハ出訴ヲ待テ通常竊盜ニ科スヘキ刑ノ二分一ヲ以テ其罪ヲ處決ス可シ

第二百九十六條

若シ物産ノ本價一「ターレル」以上ニ至ラサル
モノハ刑ニ處セララル、ナシ或ハ發見シタ
ル者止タ其拾ヒ得タル物ノ腐敗スヘキ故ア
ルヲ以テ之ヲ費耗セシキハ刑ニ處セララル、
ナシ又動産ヲ已レノ所有中ニ置キシニ當
リ穿鑿搜求ヲ被リ之ヲ偽リ隠シタルニ非リ
シキハ固ヨリ刑ニ處セララル、ナシ

〇ベツセン
千八百四十二年九月
十七日ノ刑法

第三百八十一條 凡道理上ニ於テ原有主ノ棄
却セシ動産ナリト認ム可ラサルモノヲ發見
シ即チ偶然ニ之ヲ已レノ所有ト為セシ者或
ハ自ラ唱へ出テタル原有主即チ紛失セシ人

ニ對シ其動産ヲ發見シ即チ所有ト為セシ
ヲ隱蔽シ又還與スルヲ肯ンセサルキハ監
守自盜ノ罪犯ナリトス若シ或ハ發見セシ者
已ニ他法ニテ原有主即チ紛失セシ人ヲ覺知
セシ後或ハ新聞紙上ニテ發見セシ者即チ所
有者ニ對シ公然請求セシナシヲ諒知セシ後法
ニ背キシ目的ニ依リ右等ノ所業ヲ為セシ
ヲ破毀スヘキ理由ヲ證據立テ得ヘキナシ
ニ其償却ヲ拒ミ又ハ其事ヲ官署ニ啓告セサ
ルキハ總テ監守自盜ノ罪犯ナリトス
殊ニ充分ナル辨由ト為スヘキモノハ官署ヨ
リ着手セサル前ニ紛失物ヲ發見セシ即チ所
有ニ為セシナシニ就テ之ヲ官署ニ啓告シタル

キニ在リトス

○「チユーリニンギシユスタールテン」 四千八百

刑法ノ

第二百三十二條 末項

凡他人ニ屬セシ貨類ヲ發見シ貪利ノ目的ヲ以テ之ヲ已レノ固有ト為ス者ハ前項ト同一ノ刑ニ處セララル可シ

第二百三十五條 凡他人ノ動産ヲ發見セシ者

第一款 發見セシ動産ヲ紛失シタル者若クハ原有主ニ對シ其所有物ヲ還與スヘキヲ肯ンセサルキ或ハ新聞紙上ニテ公告サレシ請求ヲ熟知シナカラ其請求ニ應セサルキ或ハ動産ヲ紛失セシ人及ヒ其原有主何ノ方法ヲ以テスルヲ論セス之ヲ發見セシ者ニ告知シタル後尚ホ貪利ノ目的ニ依リ之ヲ已レノ固有ト為スキハ通常窃盜ニ科スヘキ刑ノ二分一ヲ以テ其罪ヲ處決ス可シ

第二款 動産ノ實價一「タール」ノモノニシ

テ(甲)其動産ヲ紛失セシ人及ヒ其原有主ヨリ之ヲ發見セシ人ニ告知セシトナキニ因テ之ヲ已レノ固有ト為シタルキ或ハ(乙)物産ヲ發見セシ時ヨリ三十日ヲ過キテ官署ニ發見セシトヲ申出テ又ハ之ヲ新聞紙上ニテ公布シタルキハ六週間ヨリ多カラサ

ル禁獄ヲ以テシ若シ三週日ヨリ多カラサ
ル禁獄ニ該ル者ハ之レニ相當スヘキ罰金
ヲ以テ科セラル可シ

○「アラウンシユウツイグ」

千八百四十年七月

刑法ノ

第二百二十三條 凡拾取物ヲ法ニ背キ已レノ
固有ト為セシ者ハ其監守自盜ノ贓價ニ比例
シテ刑ニ處セラル可シ然レモ一年以上ノ徒
刑ニ代フルニ同期ノ徒場驅役ヲ以テシ一年
以上ノ徒場驅役ニ代フルニ同期ノ禁獄ヲ以
テシ又一年以下ノ徒場驅役ニ代フルニ同期
ノ禁獄ヲ以テ處刑セラル可シ

○「ハムブールク」

千八百六十九年四月三十日ノ刑法

第百八十七條 第四項

上項ノ外他ノ監守自盜並ニ拾取動産ヲ法ニ
背キ已レノ固有ト為スノ犯者ハ一年ヨリ多
カラサル禁獄ニ處セラレ或ハ四百「ターレル」
ヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ

○「バエールン」

千八百六十年十一月十日ノ刑法

第二百九十九條 凡發見セシ他人ノ動産ヲ或
ハ偶然或ハ不分明ナルニ因テ已レノ所有ト
為シ此ヲ以テ自己又ハ他人ノ為メニ不法ノ
利益ヲ計リ而メ之ヲ官署ニ啓告シ或ハ新聞

紙上ニ公布シ以テ其權有主ノ搜索ヲ為ス
ナシニ其全部若クハ其一部ヲ賣却シ又ハ典
當ト為シ又ハ費耗セシ者若シ動産ノ代價二
十「ギユルテン」以上ニ至ラサルキニ於テハ禁
錮ノ刑ニ處セラレ或ハ百五十「ギユルテン」ヨ
リ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ其他三年
以内ノ禁獄ニ處セラル、トアリ
上ノ如ク自己又ハ他人ノ為メニ不法ノ利益
ヲ計リ而シテ自ら唱へ出タル權有主若クハ此
ニ關係シタル官署ニ對シ發見セシ即チ所有
ト為シタル「ト」ヲ隱蔽シ或ハ之ヲ還與スル「ト」
ヲ肯シセサル者或ハ他ノ方法上ニ於テ紛失
セシ人ヲ覺知シ或ハ其動産ニ關シタル新聞
上ニ公告ニ依リ其人ヲ辨知シテ之ヲ償却ス
ル「ト」ヲ果サス又ハ官署ニ啓告スル「ト」ヲ怠ル
者ハ其動産ノ代價二十「ギユルテン」以上ニ至
ラサルキニ於テハ禁錮ノ刑ニ處セラレ或ハ
百五十「ギユルテン」ヨリ多カラサル罰金ヲ科
セラル可シ其他三年以内ノ禁獄ニ處セラル
ル「ト」アリ
凡他人ヨリ相應ノ分與ヲ妄ニ取ント欲スル
ノ故意ヲ以テ其拾得シ貨物ヲ隱蔽スル者
ハ上項ト同一ニ見做ス可キナリ

○「ト」ースタリヤ

七十八百六十年ノ草案

第二百七十一條 末項

凡拾得タル貨物ヲ已レノ固有ト為シ因テ
他人ヨリ相應ノ分與ヲ取ラント為ス者ハ前
條ト同一ニ見做ス可キナリ

第六十五 信義ニ背キ利ヲ圖ル等ノ罪

○佛蘭西

第四百六條 幼者ノ窮乏怯心、情欲ニ乘シ其損
害トナル可キ方法ヲ用ヒ其幼者ヲシテ金銀
動産、商業ノ手形又ハ其他ノ手形類ヲ貸借ス
ル義務ノ證書又ハ算還證書ニ其姓名ヲ手署
セシメシ者ハ其取引掛合ヲ為ス方法ノ如何
ナルヲ問ハス又口實ノ如何ナルヲ問ハス二
月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁
錮ノ刑ニ處セラレ且其罪犯ノ為メ損害ヲ受
ケタル者ニ償還ス可キ總高ノ四分一ヨリ多
カラス二十五「フラン」ヨリ少カラサル罰金
ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ前條ノ次項ニ

記シタル刑ヲ受ケシムルヲ得可シ

第四百七條 人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ預リ詐偽ヲ以テ其白紙ニ借入ノ證又ハ算還ノ證ヲ記シ又ハ其他其白紙ニ姓名ヲ手署セシ者ノ身體又ハ産業ノ為メ害トナル可キ證ヲ記シタル者ハ第四百五條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

若シ其白紙ヲ預リタルニ非ナル者其罪ヲ犯シタル時ハ贋造ノ罪ノ訴ヲ受ケ贋造ノ刑ニ處セラル可シ

第四百八條

千八百六十三年五月十三日如左改ム

借受、附托、質

入、借用ノ為メ或ハ雇賃ノ有無ヲ論セス人ノ用ヲ達スル為メ人ヨリ動産、金銀、商品、手形、算還ノ證書又ハ其他借受或ハ算還ノ證書類ヲ受取り後ニ之ヲ還シ又ハ示シ又ハ定マリタル用法ニ之ヲ用フ可キノ約ヲ為シ其約ニ背キ此等ノ諸件ヲ窃取シ又ハ消費シテ其所有者ノ損害ヲ為セシ者ハ第四百六條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

若シ行政又ハ裁判ニ管スル官吏前項ニ記セシ背信ノ罪ヲ犯シタル時又ハ僕婢、雇人、弟子、書記、官家、僮工、丁、年季弟子ノ其主又ハ師ニ對シ其罪ヲ犯シテ害ヲ為シタル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

但シ此規則ト第二百五十四條第二百五十五條第二百五十六條ニ記セシ公ケノ預リ所ニ

藏スル金銀動産、證書類ヲ竊取、掠奪スル罪ヲ罰スル規則ト相觸ル、トナカル可シ

第四百九條 裁判所ニ於テ訴訟ヲ為ス時證書又ハ覺書ノ類ヲ出セシ後如何ナル方法ヲ論セス其證書又ハ覺書ヲ竊取セシ者ハ二十五「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
但シ其刑ハ訴訟ヲ為シタル裁判所ヨリ之ヲ言渡ス可シ

○獨逸

第二百六十六條 左ノ人々ハ信義ヲ背キタル罪トナシ禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪シ或ハ兩刑ノ内一ニ從ヒ唯禁獄ニ處スルトヲ得ヘシ

第一 後見人、濫察人、財産支配人、贓物預人、ハ創業者ト撤管財人、遺言狀施行人、創業支配人、ハ創業者ト間寺ヨラ間校ス間商ヲ等起等ス之コトヲテクトヘハ若シ自ラ委托ヲ受ケ看守スヘキ人及ヒ其物件ニ付故ラニ害トナルヘキ事ヲ為シタル

第二 人ヨリ委狀ヲ受ケタル代理人、委托シタル人ノ權利等貸金銀云及ヒ財産ヲ故ラニ害トナルヘク費用シタル

第三 檢地官、評價人、仲買人、官ヨリ相場會社ハ附ケタル仲買人運漕司、商用世話人、之レ仲買人尺度官、檢

查司債幣改役ノ事金銀大小試檢司重モニ金銀船

船荷物支配人其餘職業ニ付官廳ニ於テ誓

詞ヲ為シタル者若シ其媒合ヲ以テ為スベ

キ事件ニ付其委託シタル者ノ為メ故ラニ

害ヲ為シタル者

若シ己ニ利ヲ得ル為メ或ハ他人ニ利ヲ得セ

シタルノ目的ニテ信義ヲ背キタル事ヲ為

シタル者ハ禁獄ノ刑ノ外千ターレルニ至

ル罰金ニ處スヲ得可シ

第三百一條 自己ノ利益ノ為メ幼者ノ鹿忽未

熟ナル者ニ乘シ幼者ヲシテ猥リニ義務証券

交引鋪ノ証券請取書保証金其他義務証券類

ノ文書ヲ見認シメ又ハ幼者ヲシテ唯言語ヲ

以テ拂方ヲ約束セシメタル者ハ六月ヨリ長

カラサル禁獄又ハ五百ターレルヨリ多カラ

サル罰金ニ處ス可シ

訴ヲ待ツテ其罪ヲ論ス可シ

第三百二條 凡幼者ノ鹿忽未熟ナル者ニ乘シ

猥リニ幼者ヲシテ其面目ニ關スル約束或ハ

面目ニ關スル言語聆承諾セシムルノ事ニ

誓詞或ハ之レニ等シキ請合或ハ盟約ヲ以テ

金高ノ拂或ハ其金ニ等シキ物件ニ付キタル

義務ノ放解ヲ約束セシメタルモノハ一年ヨ

リ長カラサル禁獄又ハ千ターレルヨリ多カ

ラサル罰金ニ處ス可シ

禁獄ノ外仍ホ公権ヲ剥奪スヘシ